



日本乳幼児教育学会 第33回大会
33rd The Japanese Society for Education of Young Children

大会プログラム

物語り としての 保育実践

開催期間

2023年12月9日(土)・10日(日)

会場

名古屋市立大学 滝子キャンパス

(名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1)

日本乳幼児教育学会



The Japanese Society for Education of Young Children

第33回大会 大会プログラム

2023年12月9日(土)・10日(日)

目 次

日本乳幼児教育学会第33回大会の開催にあたって	1
日本乳幼児教育学会 大会の歩み	2
大会プログラム	4
大会日程	5
会場への交通案内	6
名古屋市立大学 山の畑校舎 全体図・教室配置図	7
1号館（人文社会学部棟）1階配置図	8
2号館（教養教育棟）教室配置図	9
大会参加者の皆様へ	10
発表者・登壇者の皆様へ／研究発表座長の皆様へ	12
記念講演	13
教育講演	14
学会企画シンポジウム	15
大会企画シンポジウム	17
自主シンポジウム題目	19
研究発表分科会別発表題目	27
人名索引	58
協賛団体	61

日本乳幼児教育学会第33回大会の開催にあたって

日本乳幼児教育学会第33回大会実行委員長
上 田 敏 丈(名古屋市立大学)



2020年からの新型コロナウイルスの影響によって、激変した社会生活も海外諸国では、すでに落ち着きを取り戻しているようであり、現在、日本においても以前よりは様々な規制が緩和され、withコロナの時代に突入しているように思います。一方で、第9波も懸念されつつあり、大学の教育等についてもまだまだ慎重な対応が求められております。

このような状況下の中ですが、2023年の第33回大会について、名古屋市立大学にて3年ぶりの対面となる学会を開催する機会をいただきました。現在、12月の大会にむけて、実行委員一丸となり、鋭意、準備をすすめております。

名古屋市立大学は、全身となる名古屋市立女子短期大学、名古屋市立大学教養学部、名古屋市立保育短期大学の三者が統合・改組され、人文社会学部となりました。名古屋市立保育短期大学は「しほたん」と呼ばれ、名古屋市を中心に数多くの保育者を養成してきました。その流れを受けて、人文社会学部心理教育学科でも、少ない人数ではありますが、保育者養成校としての役割を果たしております。同時に、大学院博士前期・後期課程のある大学院としては、東海圏内にはまだまだ少なく、特に後期課程には数多くの院生が在籍し、様々な大学・短大に修了生を送り出しております。このような研究室のネットワークを土台としながら、皆様とこれからの乳幼児教育についての最先端の知見を共有し、議論し合えるような大会の実現に邁進していきます。

日本のどの地域からでも、均等に参加しやすい「ど真ん中」名古屋にて、皆様をお迎えできることを心より願っております。

日本乳幼児教育学会大会の歩み

大会（開催年）	開催校	実行・運営委員長	研究発表件数
第1回（1991年）	聖和大学	荘司 雅子	20件
第2回（1992年）	広島大学	丸尾 譲	15件
第3回（1993年）	神戸大学	浜本 純逸	25件
第4回（1994年）	京都大学	稲葉 宏雄	28件
第5回（1995年）	鳴門教育大学	佐々木宏子	32件
第6回（1996年）	大阪教育大学	玉置 哲淳	33件
第7回（1997年）	西南学院大学	米谷 光弘	36件
第8回（1998年）	名古屋女子大学	鈴木 重夫	33件
第9回（1999年）	お茶の水女子大学	無藤 隆	25件
第10回（2000年）	聖和大学	武田 俊昭	34件
第11回（2001年）	倉敷市立短期大学	前橋 明	49件
第12回（2002年）	昭和女子大学	福場 博保	45件
第13回（2003年）	大阪樟蔭女子大学	片山 忠次	60件
第14回（2004年）	中京女子大学	平岩 定法	56件
第15回（2005年）	京都文教短期大学	安藤 和彦	41件
第16回（2006年）	大阪総合保育大学	大方 美香	53件
第17回（2007年）	東京学芸大学 白梅学園大学	岩立 京子	74件

大会（開催年）	開催校	実行・運営委員長	研究発表件数
第18回（2008年）	大阪キリスト教短期大学	文屋 知明	62件
第19回（2009年）	川村学園女子大学	川村 正澄	56件
第20回（2010年）	関西学院大学 聖和短期大学	島田ミチコ	76件
第21回（2011年）	東京成徳大学 東京成徳短期大学	木内 秀俊	78件
第22回（2012年）	武庫川女子大学 武庫川女子短期大学部	西本 望	83件
第23回（2013年）	千葉大学	中澤 潤	124件
第24回（2014年）	広島大学	七木田 敦	126件
第25回（2015年）	昭和女子大学	横山 文樹	118件
第26回（2016年）	神戸女子大学 神戸女子短期大学	三宅 茂夫	138件
第27回（2017年）	西南学院大学	門田 理世	122件
第28回（2018年）	岡山大学	高橋 敏之	168件
第29回（2019年）	東北文教大学短期大学部	奥山 優佳	112件
第30回（2020年）	愛知教育大学 名古屋柳城女子大学	鈴木 裕子	139件
第31回（2021年）	福山市立大学	大庭 三枝	130件
第32回（2022年）	オンライン開催 (協力校：常磐会短期大学)	神長美津子	81件
第33回（2023年）	名古屋市立大学	上田 敏丈	119件

大会プログラム

対面開催

第1日 12月9日(土)

9:00~10:30	自主シンポジウムJS I-1/2/3/4/5・研究発表 I-1/2/3/4/5/6/7/8
10:45~12:20	開会式・記念講演
13:20~14:10	総会
14:30~16:00	学会企画シンポジウム
16:20~17:50	自主シンポジウムJS II-1/2/3/4・研究発表 II-1/2/3/4/5/6/7/8
9:00~17:30	書籍等展示販売

*理事会は12:20~13:20にて開催いたします。

第2日 12月10日(日)

9:00~10:30	自主シンポジウムJS III-1/2/3/4・研究発表 III-1/2/3/4/5/6
10:50~12:20	大会企画シンポジウム・研究発表 IV-1/2/3
13:20~14:50	教育講演
15:10~16:40	自主シンポジウムJS IV-1/2/3・研究発表 V-1/2/3/4/5/6
9:00~15:10	書籍等展示販売

*状況によって、大会スケジュール等変更の可能性があります。

大会日程

第1日 12月9日(土) 名古屋市立大学 山の畑校舎 (滝子キャンパス)

受付 (8:15~)

会 場	9:00~10:30	10:45~12:20	12:20~13:20	13:20~14:10	14:30~16:00	16:20~17:50
号館・階数 2号館2階	201	書籍等展示販売(9:00~17:30)				
2号館4階	404		開会式・記念講演		総会	学会企画シンポジウム
	401	自主シンポⅠ-1				自主シンポⅡ-1
	402	自主シンポⅠ-2				自主シンポⅡ-2
	403	自主シンポⅠ-3				自主シンポⅡ-3
	405	自主シンポⅠ-4	開会式・記念講演 (遠隔)		総会(遠隔)	学会企画シンポジウム (遠隔)
1号館2階	201	自主シンポⅠ-5				
2号館2階	202	研究発表Ⅰ-1 幼小接続				研究発表Ⅱ-1 保育思想-保育理論-保育史(1)
	203	研究発表Ⅰ-2 乳幼児と表現(1)				研究発表Ⅱ-2 現職教育(3)
	204	研究発表Ⅰ-3 現職教育(1)				研究発表Ⅱ-3 保育者養成(2)
	205	研究発表Ⅰ-4 発達論・心身の発達				研究発表Ⅱ-4 多文化共生(1)
	206	研究発表Ⅰ-5 保育者養成(1)				研究発表Ⅱ-5 乳幼児と食
	207	研究発表Ⅰ-6 乳児保育・1,2歳児保育(1)				研究発表Ⅱ-6 保育環境・保育方法
	208	研究発表Ⅰ-7 記録・ICT				研究発表Ⅱ-7 子どもの権利
	209	研究発表Ⅰ-8 現職教育(2)				研究発表Ⅱ-8 多文化共生(2)
2号館3階	305		理事会			

第2日 12月10日(日) 名古屋市立大学 山の畑校舎 (滝子キャンパス)

受付 (8:15~)

会 場	9:00~10:30	10:50~12:20	12:20~13:20	13:20~14:50	15:10~16:40
号館・階数 2号館2階	201	書籍等展示販売(9:00~15:10)			
2号館4階	404		大会企画シンポジウム		教育講演
	401	自主シンポⅢ-1			自主シンポⅣ-1
	402	自主シンポⅢ-2			自主シンポⅣ-2
	403	自主シンポⅢ-3			自主シンポⅣ-3
	405	自主シンポⅢ-4	大会企画シンポジウム (遠隔)		教育講演(遠隔)
2号館2階	204	研究発表Ⅲ-1 幼児理解	研究発表Ⅳ-1 子育て支援・子育て環境(1)		研究発表Ⅴ-1 乳児保育・1,2歳児保育(2)
	205	研究発表Ⅲ-2 保育制度・保育カリキュラム	研究発表Ⅳ-2 乳幼児期の遊び		研究発表Ⅴ-2 障害児・者への支援(2)
	206	研究発表Ⅲ-3 障害児・者への支援(1)	研究発表Ⅳ-3 乳幼児と言葉・児童文学		研究発表Ⅴ-3 乳幼児と表現(2)
	207	研究発表Ⅲ-4 保育者の専門性(1)			研究発表Ⅴ-4 子育て支援・子育て環境(2)
	208	研究発表Ⅲ-5 保育者の専門性(2)			研究発表Ⅴ-5 保育思想-保育理論-保育史(2)
	209	研究発表Ⅲ-6 健康・保健・ Covid-19・ジェンダー			研究発表Ⅴ-6 保育の質と評価

会場への交通案内

○名古屋市立大学 山の畑校舎（滝子キャンパス）

【住所】名古屋市昭和区瑞穂町山の畑1



○名古屋市立大学 山の畑校舎へのアクセス

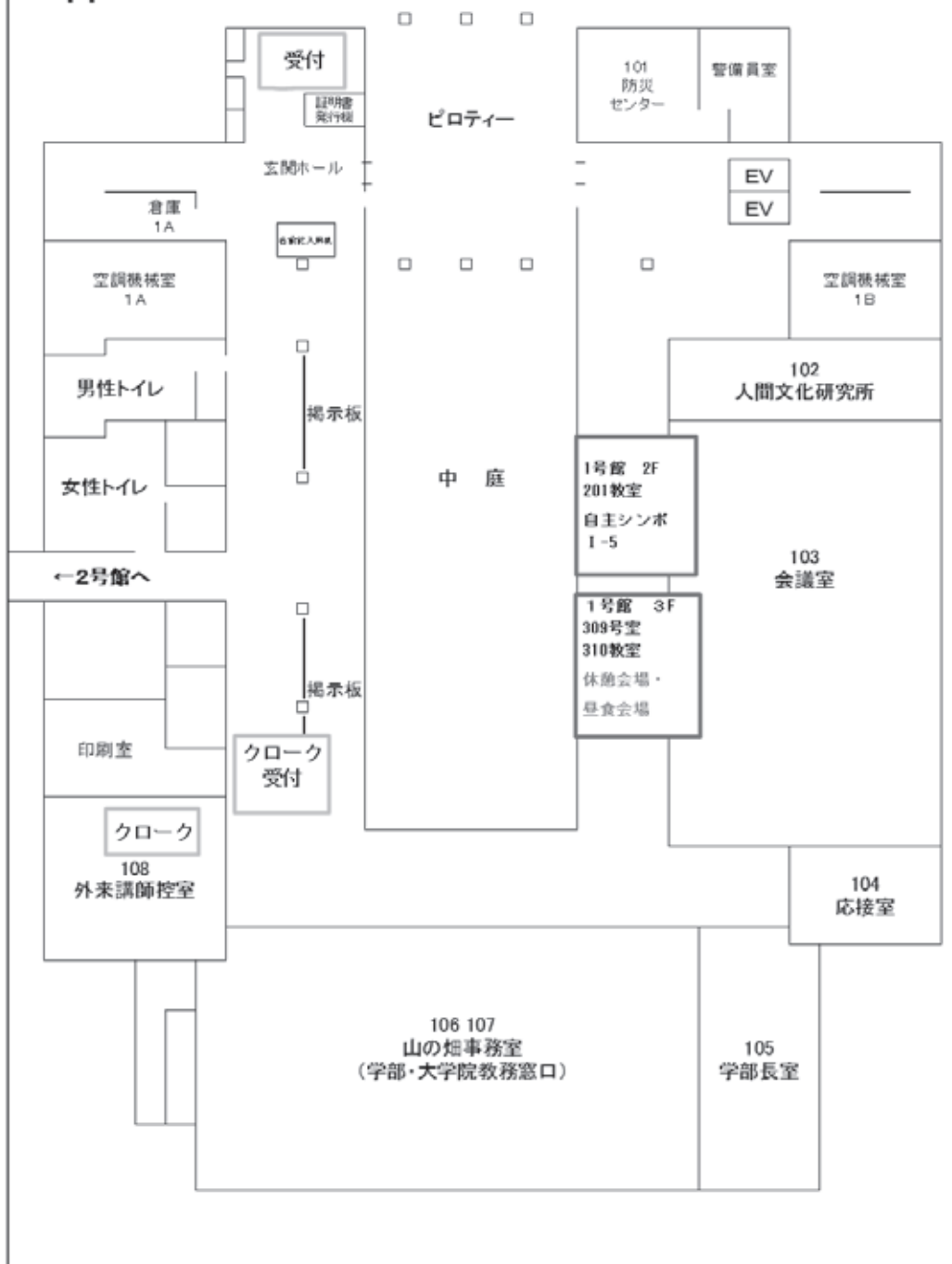
1. 名古屋駅からのアクセス
⇒地下鉄「桜通線」を利用。
「徳重行」に乗車し、「桜山」駅で下車（乗車時間は17分）。その後徒歩で10分程度。
2. 金山駅からのアクセス
⇒市バス「瑞穂運動場東行」又は「妙見町行」等に乗車。「滝子」で下車し、徒歩5分。
「金山」から「滝子」まで乗車時間は約10分。
3. セントレアからのアクセス
⇒名鉄「中部国際空港」駅から乗車し、「金山」駅にて下車。その後市バスに乗り換える。
名鉄電車での乗車時間は、約24分～35分。
4. 名古屋空港からのアクセス
⇒県営名古屋空港直通バス「名古屋駅前行」に乗車し、「名古屋駅」で下車（県営バスの乗車時間は約35分）、その後地下鉄に乗り換える。

名古屋市立大学 山の畑校舎 全体図・教室配置図

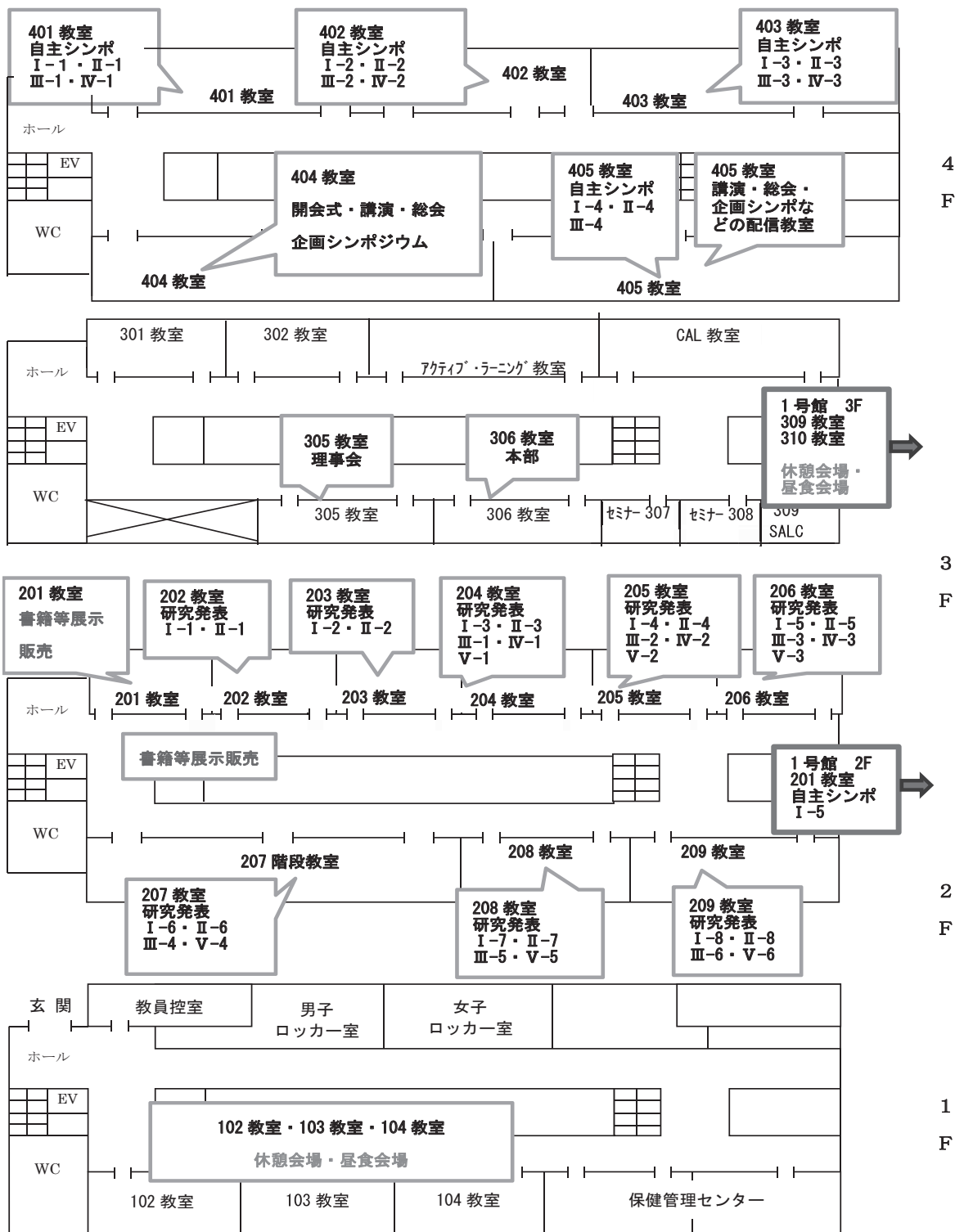


1号館（人文社会学部棟）1階配置図

1F



2号館（教養教育棟）教室配置図



大会参加者の皆様へ

名古屋市立大学大学院人間文化研究科は、2022年に「SDGs実現のためのESD行動宣言」をしております。本主旨に基づき、第33回大会の実施においても、環境にやさしい持続可能な学会であることを意識し取り組んでおります。具体的には、以下の点を実行しております。

- 大会プログラムや要旨集などをPDFのみとして、紙媒体の使用を減らす。
- 大会配布のネームホルダーなど、プラ資源の使用を減らす。

以上、ご理解いただきますようお願いいたします。

1. 受付

- 1号館1階玄関ホールにて行います。会場内では名札を必ず着用してください。
- 受付時間：12月9日（土）8：15～17：00
12月10日（日）8：15～15：00

☆予約参加者

- 当日、受付横の台で名前の用紙にご所属・ご芳名をご記入してください。
- 本学会では、環境資源の無駄使いを避けるために、各自ネームホルダーをご持参くださいますようお願いいたします。ネームホルダーをお忘れの方は、受付に紙紐を用意いたしますので、各自で名前の用紙に紙紐をつけてくださいますようお願いいたします。

☆当日参加者

- 会員・非会員共に7,000円、学生（学部・大学院生）は2,500円を当日受付にてお納めください。
- 名前の用紙をお受け取りの上、ご所属・ご芳名をご記入ください。その後ご自身で名前の用紙に紙紐をつけてくださいますようお願いいたします。

☆大会発表論文集

- 大会ホームページに、大会研究発表・大会プログラムをPDFで掲載いたします。
- 冊子としては配布いたしませんので、当日お持ちいただくデバイスに取り込んでいただきますようお願いいたします。

2. クローク

- 大会開催中、1号館1階108（外来講師控室）にクロークを開設いたしますので、ご利用ください。
- 貴重品はご自身で保管してください。
- クロークの開設時間：12月9日（土）8：15～18：20
12月10日（日）8：15～17：10

3. 出店・販売等

- 2号館2階エレベーター前ホール、201教室と201教室前のフリースペースにて、書籍等の展示販売をしております。

4. 昼食

- 2号館1階3部屋（102、103、104）と1号館3階2部屋（309、310）をお使いください。大学内の売店・食堂は営業していません。各自ご用意していただくか、受付に用意してありますカフェマップを参考に、近隣のお店のご案内を参考にお出かけください。

5. 大会本部

- 2号館3階306に設置してありますので、何かございましたら本部にご連絡ください。

6. 駐車場

- 大学内の駐車場は使用できません。車での来校はご遠慮下さいますようお願いいたします。

7. その他

- 当日、大会使用する1号館・2号館以外の建物には立ち入らないようお願いいたします。
- 大学構内は禁煙です(喫煙場所も設置しません)。
- 会場内での写真・ビデオ撮影、講演音声の録音、携帯電話の呼び出し音などはお控えください。
- 遠隔配信の部屋は2号館4階405です。

発表者・登壇者の皆様へ

1. 口頭発表について

- 個人または複数の方が口頭で研究を発表します。
- 発表者は、10分前までに入室して、機材の動作確認をした上で、座長に出席していることを報告してください。連名発表の場合は筆頭発表者が報告をしてください。分科会の開始時間までに発表者がいない場合、発表は取り消しとなります。なお、動作確認は発表の10分前から可能です。
- 発表は1発表につき20分です（15分発表、5分質疑応答）。開始から12分、15分、20分に合図の鐘を鳴らします。
- 各分科会の最後に全体討議を行います。
- 各分科会にコンピュータ等の設置はありません。ご自身のPCやタブレット等（HDMIケーブルのみ接続可能）をご持参ください。Macをご使用される場合は、ご自身のPCと変換ケーブルをご持参ください。
- 「口頭発表」と「全体討議」に参加することによって、公式発表と認められます。
- 発表の際の配布資料は40部程度ご用意ください（当日、印刷できる場所はございません）。分科会の会場学生スタッフへお渡しください。

2. 自主シンポジウムについて

- 自主シンポジウムにつきましては、企画者と司会者がシンポジウムの流れを事前に打ち合わせをして、話題提供者と指定討論者はその指示に従ってください。コンピュータについては、口頭発表者と同様です。上記をご参照ください（各登壇者がご自身のPCやタブレット等をご持参、HDMIケーブルのみ接続可能、等）。

3. 発表者欠席の場合

- 筆頭発表者が欠席した場合は、発表取消とみなします。ただし、大会本部に連絡の上、連名発表者が発表することは認められます。
- 連名発表者は、原則として筆頭発表者と同じ分科会にご参加ください。特別な事情がある場合は大会本部にお申し出ください。

研究発表座長の皆様へ

- 座長は担当分科会開始10分前までに発表会場にお越しください。
- 分科会開始前に、座長間の打ち合わせをお願いいたします。
- 発表者の発表時間帯を原則お守りください。
- 発表辞退があった場合、辞退者の発表時間の20分は空き時間としてください。プログラムに記載にされている開始時刻に合わせて、進行くださいますようお願いいたします。
- 全ての発表が終わりましたら、10分間の全体討論の時間を設けてください。
- 分科会終了時に、発表辞退者（不在者）等の確認用紙を各分科会の学生スタッフへご提出ください。

もの語りの共同生成

やまだ ようこ

(京都大学名誉教授・立命館大学 OIC 総合研究機構上席研究員)



【概要】

雨がすきか

わたしはすきだ

うたをうたおう

(八木重吉「雨の日」やまだようこ『ことばの前のことば—うたうコミュニケーション』新曜社)

雨も楽し

何でも面白く、何でも楽しむのが子どもです。

おとなのきらう雨の日だってそうです。

雨こんこ、天から降ってくるのが面白いのです。ぬれながら、平気にかけて回るのが愉快なのです。雨じゃぶじゃぶ、地面に流れるのが面白いのです。その中を、元気に渡り歩くのが壮快なのです。

着物の大切なことや衛生のことは、おとなの世界の問題です。

(倉橋惣三『子どもの心とまなざしで』フレーベル館)

上記の二つのテキストを例にしながら、次のような3つのことについてお話したい。

1 もの語り (ナラティブ) とは？

もの語り (ナラティブ) とは、経験を組織化し、意味づける行為、いわば、経験の編集作業である。私は、ものを「二つ以上の出来事をむすぶ行為」と広く定義している。「むすび」は、「結び・生ずび」である。時間軸にそって筋立てる古典的な物語だけではなく、ビジュアル・ナラティブや詩的ことばなど、共感的な語りこそ重要だと考えるからである。

2 ナラティブ・アプローチの基礎にある人間観。

主観と客観の二元分割ではなく、インタラクション (相互作用) を基本に考える。いつ、どこでも、誰にも通用する絶対的真理ではなく、場所や文脈のなかで生成される「多様性」と「変化可能性」を重視する。

3 もの語りの生成機能。

もの語りは、生きもの、生もの、生まれるものである。もの語りの変容によってものの見方や人が変わっていくこと、もの語りがもの語りを生む共同生成こそが、もの語りの醍醐味である。

【略歴】

名古屋大学文学部卒業、名古屋大学大学院教育学研究科博士課程退学、教育学博士。愛知淑徳大学教授、京都大学大学院教育学研究科教授、立命館大学特別招聘教授等を経て、現在は京都大学名誉教授、立命館大学 OIC 総合研究機構上席研究員。日本質的心理学会理事長、日本心理学会理事、日本発達心理学会常任理事等を歴任。

【主な著書】

やまだようこ著作集 (新曜社)

第1巻 ことばの前のことば—うたうコミュニケーション

第2巻 ことばのはじまり—意味と表象

第3巻 ものがたりの発生—私のめばえ

第4巻 質的モデル生成法—質的研究の理論と方法

第5巻 ナラティブ研究—語りの共同生成

第6巻 私をつつむ母なるもの—多文化の「人と人の関係」イメージ

子どもと共にあることの意味を生成する語り

—遊誘財・子ども・保育者—

佐々木 晃

(鳴門教育大学大学院)



【概要】

私たちは子どもという存在によってはじめて保育という場に立つことができます。保育者とは仕事であり責任であるとともに立場であることや、一人一人の子どもによって与えられる役割も異なってくることを、しみじみとかみ締めるこの頃です。私は20年間の担任保育者をはじめりとして教育委員会指導主事、教頭、園長と立ち位置を少しずつ変えながら、子どもと共に過ごしてきました。そんな保育者としての生活の中で、絶えず書き続けてきたものが保育の記録です。一般的にそれらは事例やエピソードなどと呼ばれています。過去の記録を紐解いてみると、子どもの姿を描く構図の変化に「自分史」のような意味合いが感じ取れます。若き保育者時代のそれらは、保育者として、子どもと共にあることの意味を求めて、書かずにはいられない心情で綴ったものでした。

今回このような機会をいただき、時系列にそって記録を並べてみると、それぞれのキャリアステージでの不安や葛藤、喜びややりがいがいちばめられていることが分かりました。保育者としての誕生から幼年期、児童期、青年期を経て、壮年期を迎えている現在の私は、若き保育者たちの物語づくりに参加しています。私が先輩諸氏からもそうしてもらったように、保育の体験を語り合い、自分の言葉で紡ぎながら記録する作業を手伝うことの楽しみを見つけました。「語る」ことが「騙る」ことにならないように、子どもと共にあることの意味を誠実に語り合い、保育の喜びや楽しみをいかに共有していくかが私の課題です。

【略歴】

昭和39年徳島生まれ。平成元年3月鳴門教育大学大学院修士課程修了。同年4月より鳴門教育大学附属幼稚園教諭。徳島県教育委員会指導主事等を経て平成26年度より附属幼稚園長。令和4年4月より鳴門教育大学大学院学校教育研究科幼児教育コース教授。現在に至る。日本保育学会理事。文部科学省幼児教育の実践の質向上に関する検討会委員。

【主な著書】

「0～5歳児の非認知的能力」チャイルド本社(2018)単著

「遊誘財・子ども・保育者」郁洋舎(2022)共著

「0～6歳児 健康な心と体を育てる保育」東洋館(2023)編著 等

不適切保育はなぜ起こるか

—その実態、要因、そして対応を考える—

企画	保育臨床検討委員会
登壇者	岡花祈一郎（琉球大学） 平松知子（熱田福祉社会理事長） 木元有香（鳥飼総合法律事務所）
指定討論	山縣文治（関西大学）
司会	七木田 敦（広島大学） 岩立京子（東京家政大学）

企画主旨

全国の保育施設で園児への暴行や虐待といった「不適切な保育」が相次いだことを受けてこども家庭庁は全国調査を行い、2022年4月から12月の間に保育所では914件の「不適切な保育」が確認されたと明らかにした。保育施設全体では「不適切な保育」は1316件、このうち「虐待」は122件確認されている。こうした結果を受け、こども家庭庁は、「不適切な保育」とは、「虐待などが疑われる事案」と定めるとともに、防止や対応についてのガイドラインを設け、公表した。原因として保育者不足により業務負担が重くなってきていること、また子どもの命を預かる者として保育者の倫理性を問題にする声がある。しかしながら、このような問題が起こる背景には様々な要因が複合的に影響を与え、保育者自身の問題ということだけで議論されるのでは十分な予防と解決には至らないと考える。そこで本シンポジウムでは、保育臨床という視点から、今一度その実態、要因、背景を明らかにし、「不適切保育」といわれる課題への対応と予防について議論したい。

「不適切な保育」が生まれる構造とその課題への対応 岡花祈一郎（琉球大学）

「不適切な保育」が社会問題となって以降、全国の保育現場は様々な対応を迫られている。各省庁からの全国実態調査（2023）、セルフチェックリスト（全国保育士会、2017/2018 一部改訂）を活用した園内研修などの対応である。しかし、実際の園や保育者はこの問題をどう捉え何を課題として受け止めているのだろうか。今回は沖縄県で行った調査から、その構造的課題と対応策について考えてみたい。

第一に、担任保育者、園長主任等関係なく「不適切な保育」が生起する要因として、「保育士の不足」、「時間的・精神的な余裕のなさ」との回答が多かった。保育者らは、いつも限られた制約のなかで多くを求めら

れており、今回の「不適切な保育」問題の背景に、保育者の配置をはじめ構造的な問題を挙げる意見が多かった。

第二に、保育の透明性を求める声がある一方で、その監視への不安が高かった。調査から、園長主任等の管理職は保育の透明性を高めることに前向きなのに対して、担任保育者は「外からの監視」に対して、「自由な保育がしにくくなる」のではないかという懸念を抱いていることが明らかになった。この点は、園内で軋轢や不信の構造を生み出しかねない意識の相違であった。

第三に、対応策の一つとして、保護者との信頼関係を生み出すコミュニケーションの見直しが挙がっていた。保育者の実感としては、チェックリストを用いた研修や倫理啓発研修等ではなく、「これまで以上に保護者への小まめな連絡を徹底している」「保護者とのより良い信頼関係をつくる方が重要」など保護者とのコミュニケーションをより密にすることで信頼を取り戻せるのではないかと感じていた。

以上のふまえると、「不適切な保育」課題を保育者の自律性を損なうことなく解決するためには、監視ではなく信頼を生み出すコミュニケーションの在り方を模索する必要があるだろう。それは、ゼロトレランスのような不適切性の徹底排除ではなく、保育者同士や保護者と園との関係を組み替えるアプローチの可能性だといえる。

現場の視点から不適切保育を考える

平松知子（熱田福祉社会理事長）

相次ぐ不適切な保育事例だけでなく、2021年には2347件にも及ぶ保育所などでの事故件数が把握されており、過酷な保育環境から構造的に生み出され続ける不適切な保育や保育事故が大きな課題となっている。ここでは、現場の視点からの問題提起を2つに絞って報告する。

1. ゆとりのない現場課題 時代とともに、長時間化する保育の現場を、十分とは言えない保育士の配置基準で保育をし、待機児童解消のために、これも十分とはいえぬ面積基準の中で定員より1.25%増しの園児を保育している過酷な環境がある。これらの基準が改善されれば直ちに不適切な保育がなくなるというわけではないが、大きな要因の一端になっていることは間違いない。

2. 職場の民主主義の問題 保育は「感情労働」と言われるが、休憩や休日が安定的に取得できているのか、人権意識を向上させる研修がどの職員にも保障されているのかどうかなど、専門性を発揮させる背景にも着目したい。なかでも、自らが適切ではない行為に及びそうときに、同僚に「ここ変わってもらえる？」と声をかけたり、そのような行為を見た時に「大丈夫？変わろうか」と言い合えるような職場の民主主義がどの園にもあるのかという視点が不可欠である。

保育所は児童福祉法に掲げられているように「すべて児童は、ひとしくその生活を保障され、愛護されなければならない」という原理を、福祉として守り続けるためには、今何が求められているのか、社会的状況と共に保育制度全体を見直す時に来ていると考える。

不適切保育の予防について

木元 有香(弁護士・保育教諭)

こども家庭庁が策定した「保育所等における虐待等の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン」(令和5年5月、以下「ガイドライン」と略す。)では、「不適切な保育」とは保育士会チェックリストの『『良くない』と考えられるかかわり』の5つのカテゴリと同じものとは解さず、「虐待等と疑われる事案」と捉えなおされた。このことにより、保育者が一般的に「不適切な保育」と聞いた際に念頭に浮かぶ、望ましくない保育の数々が、必ずしもガイドラインが定める「不適切な保育」ではなくなったこととなる。そのため、日々の保育実践の中でこれも不適切保育でないか、あれも不適切保育でないか、と過度に心配したり、委縮したりする必要はなくなった。もっとも、ガイドラインが定める「不適切な保育」の中には虐待等が含まれ得るものであり、「不適切な保育」自体が未然防止や改善を要するものであるとして、必要な対応を講じていく必要がある。

ガイドラインでは、「保育所等における虐待等の未然防止にあたっては、

・各職員や施設単位で、日々の保育実践における振り返りを行うこと・職員一人一人が子どもの人権・人

格を尊重する意識を共有することが重要である」とされている。前者について、保育所保育指針解説において「子どもの人権に配慮した保育となっているか、常に全職員で確認することが必要である」と示されているとおり、日々の保育実践の振り返りにあたっては、常に「こどもにとってどうなのか」という視点から考えていくことが何より大切である。各職員や施設単位で、日々の保育実践における振り返りの場を定期的に持つこと、組織内で相談がしやすい職場を作ること等の対応が求められる。後者について、職員一人一人が、こどもの人権や人格尊重に関する理解を十分に深めた上で、こどもの人権・人格を尊重する保育や、それに抵触する接し方等について認識し、職員間でそうした意識を共有することが重要である。職員に対して教育・研修を行うほか、不適切保育を行うとどのような処分がなされるのか、就業規則に明記し、職員に周知している園も存在する。また、園や職員が、保育内容等に関する自己評価を行うことも重要である。加えて、第三者評価や公開保育、地域の合同研修会等の活用を通じて、日々の保育について施設外部からより多様な視点を得ながら、職員の気づきを促すことも不適切保育の未然防止に繋がる。

指定討論者として観点 山縣 文治(関西大学)

不適切な保育・養育はなぜ発生するのか。一般には、職員自身の未熟さ、暴力や体罰を許容する態度などの個人的問題であげられがちであるが、その他にもいろいろ理由が考えられる。保育所等では少ないが、児童養護施設等では、子ども自身が職員に対して暴力を振るうこともある。これに対して懲罰という形で対応することもある。この他にも、①職員間のいさかい、②管理職等に暴力等や子どもの意向を尊重した保育・養育を肯定する文化がある、③理事長と施設長が一緒だったり、世襲制であったりして理事会や評議員会が機能していない、④社会福祉法にもとづく苦情解決制度である第三者委員や運営適正化委員会が機能していない、⑤保育所等でいうと、騒音問題や朝夕の送迎時の混雑への不満など地域社会からの批判や偏見、これによって、⑥職員が増えにくかったり活動がしづらくなるなど制度の低水準、これらが、意図的か否かにかかわらず、職員の不適切な保育・養育行為を誘発していると考えられる。前段を総括すると、不適切な教育・保育を生じさせるものは、個人の質、実践の質、組織の質、制度の質、(地域)社会の質、の大きく5つということである。一方で、これらはよりよい教育・保育を展開するためのメルクマールともなる。

保育実践を質的に捉えることで開かれる地平

話題提供 香曾我部 琢 (宮城教育大学)
藤井 真樹 (名古屋学芸大学)
濱名 潔 (認定こども園武庫愛の園幼稚園)
指定討論 二宮 祐子 (和洋女子大学)
司会 勝野 愛子 (同朋大学)

企画趣旨

保育実践を質的に捉えることは、実際にどのように次の保育に生かされていくのだろうか。保育実践を質的に捉えるアプローチは近年、多くの方法が紹介されており、その多様性がうかがわれる。本企画では、大会趣旨の「物語りとしての保育実践」という観点から、過去の体験や出来事を一つの物語のように捉える方法論を取り上げる。その対象として、1) オートエスノグラフィ、2) エピソード記述、3) ライフヒストリーを挙げて、それぞれの方法論で研究を行っている識者から、なぜ、また、どのように保育実践を捉えたのかについて紹介して頂く。それを踏まえ、時々刻々と流れゆく保育実践を物語として捉えることによって、何が見えてくるのか、また、これからの保育にどのような変化をもたらす可能性が潜在しているのか。これからの保育に資する地平を見出すシンポジウムとしたい。

1. 保育者達の語りが交差するとき

香曾我部琢

本発表では、40年以上のキャリアがある保育者Aさんがどのような保育者人生を歩んできたのか、その人生(ライフ)を語ってもらったデータを分析した結果と考察について示すことで、保育実践を質的に捉えることの重要性について検討していきたい。

Aさんは、短大を卒業して自治体Zに栄養士として就職する。しかし、当時は第二次ベビーブームを迎えようとしている時期で、保育士(当時は保母)が不足していることもあり、期間限定で保育士として保育園で働くこととなった。当初は、なじめない時期があったものの、先輩の保育士からあたたかい支援を受けたり、子どものとのかかわりに充実感を感じたりすることで、保育士なることを希望するようになった。

保育士になったAさんは、その後、保育者として勤務する中で先輩保育者と関わりながら、ともにZ町の

「理想とする保育実践」を構想し、その実現に向けて働く保育実践コミュニティの成員となる。Aさんは、自らの保育実践を質的に変容させつつ、さらに同僚保育者や後輩保育者との関係性を広げていった。そして、所長職に就いてからは、地域住民や自然環境などの地域の教育資源を内包させた保育実践を目指してきた。

Aさんが保育者としてZ町に生きてきた人生(自己形成のプロセス)を質的に分析したこの研究によって、Aさんの人生だけではなく、Aさんが関わってきた保育者達の実相もZ町の保育の全体像がたどってきた変容のプロセス、そこで生じた困難や将来への展望などの一側面を捉えることが可能となった。

一人の保育者の語りには、さらにその保育者にかかわった保育者の語りクロソオーバーしたり、パラレルに並走したりする。この複雑に絡み合う語りを質的に分析することで、そこで、そのときに起きた現象の意味を問い直すことが可能となる。本発表では、保育者Aの語りを踏まえつつ、そのときどきに関わった他の保育者との語りも含めて質的に分析した結果と考察について示していきたい。

2. 「あいだ」を描き出すことによって読み手との対話を生み出すエピソード記述

藤井真樹

エピソード記述とは、鯨岡(2005)による方法論である。昨今、広く人に関する研究において「質的」とする研究法が多種多様に増えてきている。その中において、今あらためてエピソード記述の意義を再度確認したい。エピソード記述とは、観察する事象について、可視的な行動や発言の記録のみに留まらず、その場を共にしている観察者(通常、関わりながらの観察であることが多いが)に間主観的に感じ取られたことも含み込んで記述する方法である。これにより、その場の雰囲気や人の思い、息遣いのような、他者との関わり

の機微までも読み手に伝えることができる。

エピソード記述が「質的」であることの最大の要はここにあり、人と人との「あいだ」で生じていることをこそ掬い上げるといふことにある。人と人との関係性を動かしているのは、その「あいだ」で生じている各主体の思いであるにも関わらず、これは目に見えないため従来の自然科学に基づく方法では掬い上げられずにいた。

例えば、二人の子どもが喧嘩の後、沈黙している場においては、表面的には何の発語もないわけだが、身体の次元では自ずと言葉にならない思いが双方ともに感受されており、互いにそれを「あいだ」で感じ取っているはずである。二者のこの後の関係性はこの「あいだ」の時間や空間を共にしたことが大きな意味を持つだろう。「あいだ」で生じていることを丁寧に省察することはその子どもたちへの理解はもちろんのこと、子どもにとっての沈黙を共有することの意味をもあらためて考えていくことにもつながり得る。これは一例に過ぎないが、エピソード記述は、描き出した一事象の理解に留まらず、それに類似した事象やそもそもその事象が有する本質的な意味までもを包括する理解を導く方法だといえる。

また、エピソード記述のもう一つの要は、「そこで何が起きていたのか」という客観的な把握を超えて、そこを生きていた者たちの心的な体験世界を読み手がいわば追体験するような形で感じ取ることが可能となる点である。すなわち、書き手が一方的にある一定の知を発信して終わりではなく、書き手と読み手との「あいだ」においても生身の人間が生きている質感的な世界を共有する中で、双方ともに描かれた者のアクチュアルな理解が促される方法だといえる。これは、数値化やグラフや表による視覚化によって対象を理解しようとする自然科学に基づいた方法とは全く異なる知の表現であり、読み手の生きている世界と響き合いながら、新たな意味を産出していくことができる。エピソード記述は、こうした読み手との対話を生み出し、その過程において双方にとって自らの暗黙の理解を新たにする機会を有している。

3. オートエスノグラフィーで保育実践を語りながら自身の文化を理解する

濱名潔

自分の保育実践を研究したい。その思いから、自分自身を対象に研究できるオートエスノグラフィー(以下、AE)を採用する者もいるだろう。実際に発表者(以

下、私)も「AE=自分自身を対象にした研究」だと安易に考え、研究を始めた。しかし、AEに対する理解が深まるにつれて、それでは不十分だと気づいた。

AEとは、研究者が自ら有する文化を理解することを目的(土元ら、2022)に、自身の個人的な経験を用いて省察し、芸術的・分析的に表現する(アダムスら、2022)方法論である。したがって、保育分野のAE研究では自身の保育経験の省察を通して、当時置かれていた文化を記述することが重要になる。

私はこれまでに、保育職に就職するまでの自己形成プロセス(濱名、2023)やクラス文化(子どもや同僚との関係)による子どもへの関わりの変容プロセス(Hamana, 2023)を探求してきた。AEを始めたきっかけは、自身の保育実践を振り返り、どのような意味づけができるかを考えたかったからである。また、人に語りたくない/葛藤が消化できていない/思い出したくない経験も探求した。これは私の物語の開示によって、同様の事象に対峙している者が自身の経験を振り返ったり(プラニー、2022)、もの見方が広がる機会(Ellis & Bochner, 2000)の一助になればと考えたからである。

保育実践を振り返るにあたり、記憶を辿るだけでは不十分だった。独りよがりなハッピーストーリーだと批判も受けた。保育実践を物語る過程で自身が納得しても、他者から見ればキレイにまとまったツマラナイ物語であることに気づいた。それからは、記憶だけに頼らず、日記、回顧的記録、研究協力者からのインタビューも含めたトライアングレーションを行った。また物語をより深く描写できるように、文化的側面の描写ではTEM(安田ら編、2012)の概念ツールを、心理的葛藤の描写では自己を複数のIポジションの対話から捉える対話的自己論(ハーマンズら、2006)を採用して分析した。

そうして見えてきたものは、記憶だけではわからなかった私の知らない物語であった。丁寧にAEをしていくと、過去の自分はどのような文化とともに何に影響を受けながら保育をしていたのかが見えてくる。保育では日常の省察が重要であるが、AEは当時の自身の価値観や文化的制約の関係を踏まえた省察である。そう考えれば、保育実践を子ども一保育者の関係なく、文化というより広いシステムから捉え直すことが可能だといえよう。

以上を踏まえて、二宮氏より指定討論頂き、議論を深めたい。

自主シンポジウム I-1

12月9日（土） 9：00～10：30

〔会場〕 2号館4階 401

乳児保育の観察研究における知をどう捉えるか

—方法論の検討を通して—

企 画	本岡美保子	（比治山大学）
司 会	濱名 潔	（認定こども園武庫愛の園幼稚園）
話題提供	本岡美保子	（比治山大学）
	伊藤美保子	（ノートルダム清心女子大学）
	長野 未来	（名古屋市立大学大学院）
指定討論	西 隆太郎	（ノートルダム清心女子大学）

自主シンポジウム I-2

12月9日（土） 9：00～10：30

〔会場〕 2号館4階 402

もう一つのキリスト教保育の歴史から学ぶ

—その養成教育と幼稚園教育の実際—

企 画	豊田 和子	（名古屋柳城女子大学）
司 会	片山 伸子	（名古屋柳城女子大学）
話題提供	青山 佳代	（名古屋柳城女子大学）
	村田あゆみ	（名古屋女子大学）
	山本 聡子	（名古屋柳城女子大学）
指定討論	清原みさ子	（愛知県立大学名誉教授）

自主シンポジウム I-3

12月9日（土） 9：00～10：30

〔会場〕 2号館4階 403

保育のなかの科学4

土遊びを通して考える幼児教育からの学びのつながり

企 画	滝口 圭子	(金沢大学)
司 会	滝口 圭子	(金沢大学)
話題提供	小谷 卓也	(大阪大谷大学)
	長崎 元気	(幼保連携型認定こども園御幸幼稚園)
指定討論	富田 昌平	(三重大学)

自主シンポジウム I-4

12月9日（土） 9：00～10：30

〔会場〕 2号館4階 405

保育の質を高める「省察」

—養成課程においていかに習慣づけるか—

企 画	鬢櫛久美子	(名古屋柳城女子大学)
話題提供	野田さとみ	(名古屋柳城女子大学)
	高瀬 慎二	(名古屋柳城女子大学)
	三輪 雅美	(名古屋柳城女子大学)
	林 韓燮	(名古屋柳城女子大学)
指定討論	三品 陽平	(愛知県立芸術大学)

自主シンポジウム I-5

12月9日(土) 9:00~10:30

【会場】 1号館2階 201

認定こども園における2-3歳接続期の課題 I

企画	大方 美香	(大阪総合保育大学)
司会	大方 美香	(大阪総合保育大学)
話題提供	中田 範子	(東京家政学院大学)
	石丸 るみ	(大阪総合保育大学)
	山下 文一	(高知学園短期大学)
指定討論	神長美津子	(大阪総合保育大学)

自主シンポジウム II-1

12月9日(土) 16:20~17:50

【会場】 2号館4階 401

保育の質の向上につながる自己評価チェックリスト開発

—韓国オリニジップ評価マニュアルを手がかりに—

企画	宮地あゆみ	(九州大谷短期大学)
	清水 陽子	(九州産業大学)
司会	清水 陽子	(九州産業大学)
話題提供	パク ジンオク	(ドンウォン大学[韓国])
	松本真理子	(尾張旭市役所)
	清水 陽子	(九州産業大学)
指定討論	宮地あゆみ	(九州大谷短期大学)

自主シンポジウムⅡ-2

12月9日(土) 16:20~17:50

【会場】 2号館4階 402

令和期に向けて必要となる保育内容表現の活動と子ども文化活動との融合を目指して
—音楽、運動遊び、劇遊び、英語遊び、造形遊び、ごっこ遊び、伝承遊びを中心に—

企画	田中 卓也	(育英大学)
司会	中島 緑	(清和大学短期大学部)
話題提供	川村 高弘	(神戸女子短期大学)
	西田 明史	(中村学園大学)
	植田恵理子	(高野山大学)
	安氏 洋子	(長野県立大学)
	笥 有子	(浜松学院大学)
	中島 眞吾	(中部大学)
	丸山ちはや	(盛岡大学短期大学部)
指定討論	松村 齋	(栢山女学園大学)

自主シンポジウムⅡ-3

12月9日(土) 16:20~17:50

【会場】 2号館4階 403

情報活用能力育成の現状と課題

—プログラミング教育を視点とした就学前段階からの体系的なカリキュラム編成について—

企画	大久保淳子	(白梅学園短期大学)
司会	森 久美子	(純真短期大学)
話題提供	大久保淳子	(白梅学園短期大学)
	柴田 雅博	(福岡県立大学)
指定討論	坂無 淳	(福岡県立大学)

自主シンポジウムⅡ-4

12月9日(土) 16:20~17:50

【会場】 2号館4階 405

保育者はすべり台での遊びのどこをみているのか？

～遊びの面白さとリスクのバランスを考える～

企 画	宮田まり子	(白梅学園大学)
司 会	大澤 洋美	(東京成徳短期大学)
話題提供	水野佳津子	(佼成育子園)
	杉山 健人	(鳴門教育大学附属幼稚園)
	西井 宏之	(白梅学園大学附属白梅幼稚園)
指定討論	久留島太郎	(植草学園短期大学)

自主シンポジウムⅢ-1

12月10日(日) 9:00~10:30

【会場】 2号館4階 401

多様な学生を保育者として育てるための養成校の役割を考える

企 画	卜田真一郎	(常磐会短期大学)
司 会	卜田真一郎	(常磐会短期大学)
話題提供	林 恵	(足利短期大学)
	長澤 貴	(鈴鹿大学短期大学部)
	石川 拓次	(鈴鹿大学短期大学部)
	白石 雅紀	(東京未来大学)
	白井由希子	(常磐会短期大学)
	卜田真一郎	(常磐会短期大学)

自主シンポジウムⅢ-2

12月10日（日） 9：00～10：30

〔会場〕 2号館4階 402

保育者が自分を活かすことで生まれる新しい子どもとの関係

—「みんなで聴く時間・フォーカシング」を通して—

企 画	矢野 キエ	(大阪キリスト教短期大学)
話題提供	矢野 キエ	(大阪キリスト教短期大学)
	三木 健郎	(備前市立片上認定こども園)
指定討論	齊藤 崇	(淑徳大学)

自主シンポジウムⅢ-3

12月10日（日） 9：00～10：30

〔会場〕 2号館4階 403

就学移行期における生成的なカリキュラムと評価

企 画	岡花祈一郎	(琉球大学)
司 会	倉盛美穂子	(日本女子体育大学)
話題提供	武内 裕明	(弘前大学)
	岡花祈一郎	(琉球大学)
指定討論	河邊 貴子	(聖心女子大学)

自主シンポジウムⅢ-4

12月10日（日） 9：00～10：30

〔会場〕 2号館4階 405

子どもに対する保育者の「援助しない援助」の意義を考える

—複線経路等至性モデリング（TEM）による分析から—

企 画	渡邊 拓真	（広島大学附属幼稚園）
司 会	七木田 敦	（広島大学大学院）
話題提供	渡邊 拓真	（広島大学附属幼稚園）
	中川 順子	（広島大学附属幼稚園）
	森田水加穂	（広島大学附属幼稚園）
指定討論	香曾我部琢	（宮城教育大学）

自主シンポジウムⅣ-1

12月10日（日） 15：10～16：40

〔会場〕 2号館4階 401

インクルーシブ保育を考える(2)

～インクルーシブ保育による定型発達児に焦点を当てて～

企 画	守 巧	（こども教育宝仙大学）
司 会	守 巧	（こども教育宝仙大学）
話題提供	若月 芳浩	（玉川大学・四季の森幼稚園）
	長谷川幸男	（南台幼稚園）
指定討論	松原 豊	（東京教育専門学校）

自主シンポジウムⅣ-2

12月10日(日) 15:10~16:40

【会場】 2号館4階 402

保育者の実践知を探る質的データ分析法としてのSCAT

企 画	中坪 史典	(広島大学)
司 会	内田 千春	(東洋大学)
話題提供	加藤 望	(名古屋学芸大学)
	中坪 史典	(広島大学)
指定討論	肥田 武	(一宮研伸大学)

自主シンポジウムⅣ-3

12月10日(日) 15:10~16:40

【会場】 2号館4階 403

保育者の専門性の向上を目指して
—多様な関係の中で育つ保育者たち—

企 画	谷 昌代	(北陸学院大学)
司 会	熊田 凡子	(関東学院大学)
話題提供	谷 昌代	(北陸学院大学)
	熊田 凡子	(関東学院大学)
	藤井 千里	(金沢泉丘こども園)
	本江 理子	(富山国際大学)

研究発表 I -1

12月9日(土) 9:00~10:30

〔会場〕 2号館2階 202

幼小接続

座 長 掘越 紀香 (国立教育政策研究所)
横井 紘子 (十文字学園女子大学)

- 9:00~ 1 幼小接続期に関する保育者・小学校教師の意識
掘越 紀香 (国立教育政策研究所)
松嵯 洋子 (明治学院大学)
野口 隆子 (東京家政大学)
- 9:20~ 2 5歳期の子どもに「小学校」はいかに意味づき変容していくのか
—自己と「小学校」との関係構築の視点から—
松田 登紀 (奈良女子大学附属幼稚園・奈良女子大学大学院)
- 9:40~ 3 保育者と小学校教員の「音楽観」における相違点と共通点
渡辺ユリナ (愛知学泉大学)
- 10:00~ 4 幼児教育と小学校教育における子どもの在り方のつながりと隔たり
—遊びを通した学びと教科における学びをつなぐことの現状と課題—
横井 紘子 (十文字学園女子大学)
- 10:20~ 全体討論

研究発表 I -2

12月9日(土) 9:00~10:30

〔会場〕 2号館2階 203

乳幼児と表現(1)

座長 駒 久美子 (千葉大学)
島川 香織 (関西国際大学)

- 9:00~ 1 これでは本当によいのか。領域「表現」幼児の造形活動を考える
—素材との対話に着目して～自己実現の楽しさを求めて—
安井 良尚 (湊川短期大学)
前川 豊子 (湊川短期大学)
- 9:20~ 2 劇団ペロによる幼児のための演劇『アストンの石』の特徴
小林由利子 (明治学院大学)
- 9:40~ 3 弾き歌いの実践を通じた省察的学習
島川 香織 (関西国際大学)
- 10:00~ 4 保育者養成における音楽ワークショップの可能性と課題
—想定外に対峙する学生の言動に着目して—
小井塚ななえ (東洋英和女学院大学)
- 10:20~ 全体討論

研究発表 I -3

12月9日(土) 9:00~10:30

〔会場〕 2号館2階 204

現職教育(1)

座 長 河邊 貴子 (聖心女子大学)
鬼頭 弥生 (名古屋短期大学)

- 9:00~ 1 「遊び」がもつ力の一考察
—参加者主体の教員研修の試みから—
鎌内 菜穂 (奈良女子大学附属幼稚園・奈良女子大学教育システム研究開発センター)
- 9:20~ 2 外部研修での学びと園での学びの往還
—実践記録と振り返りの方法を通して—
安藤 香 (名古屋芸術大学)
川合真由美 (名古屋文化学園保育専門学校)
- 9:40~ 3 保育における越境学習への展開
～オンライン公開保育・ドキュメンテーションというツールをてがかりに～
田島 大輔 (和洋女子大学)
- 10:00~ 4 報道記事のテキストマイニングに見る乳幼児期の性犯罪被害の特徴
大橋 渉 (愛知医科大学 臨床研究支援センター)
- 10:20~ 全体討論

研究発表 I -4

12月9日(土) 9:00~10:30

〔会場〕 2号館2階 205

発達論・心身の発達

座長 浅井 幸子 (東京大学)
林 牧子 (愛知教育大学)

- 9:00~ 1 幼児のレジリエンスに対する保育者の認識の構造に関する研究
劉 梅 (広島大学)
- 9:20~ 2 クラス集団の仲間関係の中で育つ子どもたち
~担任が気がかりに感じている子どもに着目して~
岡本 美幸 (美作大学短期大学部)
- 9:40~ 3 乳児期の「自己肯定感」の研究(2歳から3歳)
今津 香 (大阪総合保育大学 総合保育研究所)
- 10:00~ 4 情動の共同的な理解に向けて
—3歳児の小グループ探究の検討—
浅井 幸子 (東京大学)
野澤 祥子 (東京大学)
- 10:20~ 全体討論

研究発表 I -5

12月9日(土) 9:00~10:30

〔会場〕 2号館2階 206

保育者養成(1)

座 長 上田 敏丈 (名古屋市立大学)
吉田 貴子 (大阪国際大学短期大学部)

- 9:00~ 1 コミュニケーション力向上に向けた取り組みに関する研究
~保育者をめざす学生を対象として~
吉田 貴子 (大阪国際大学短期大学部)
- 9:20~ 2 保育所における実習指導者としての主任保育士の役割行動の提案
寫田 弘子 (名古屋短期大学)
磯村 正樹 (椙山女学園大学)
- 9:40~ 3 教育実習における学生対応について
江島絵理子 (横浜創英大学)
相賀 頌子 (横浜創英大学)
- 10:00~ 4 スウェーデンにおける保育者の資格取得の構造と特徴
杉山 和 (名古屋市立大学大学院)
矢崎桂一郎 (国立教育政策研究所)
- 10:20~ 全体討論

研究発表 I -6

12月9日(土) 9:00~10:30

〔会場〕 2号館2階 207

乳児保育・1,2歳児保育(1)

座長 金子 嘉秀 (帝京大学)
七木田 敦 (広島大学大学院)

- 9:00~ 1 排泄場面において保育士が乳児に「寄り添う」とはどういうことか?
~予想に反して出てしまった男児の事例から~
水野佳津子 (佼成育子園)
中坪 史典 (広島大学)
- 9:20~ 2 乳児クラスと幼児クラスの違いにおける保育者の環境構成の意識について
表 夏子 (広島大学大学院生)
七木田 敦 (広島大学大学院)
- 9:40~ 3 1-2歳児は水とどうかかわるのか
—水道での子どもの行為の分析—
最上 秀樹 (学習院大学大学院)
- 10:00~ 4 低年齢幼児の社会的スキル発達のバリエーション
金子 嘉秀 (帝京大学)
- 10:20~ 全体討論

研究発表 I -7

12月9日(土) 9:00~10:30

〔会場〕 2号館2階 208

記録・ICT

座長 勝浦 眞仁 (同志社女子大学)
松井 剛太 (香川大学)

- 9:00~ 1 保育士は保育日誌とどう付き合ってきたのか
—プレ延長保育導入世代の保育士に焦点をあてて—
前田 寛子 (広島大学大学院)
- 9:20~ 2 特別な配慮を必要とする幼児のデジタルポートフォリオの活用と関係者間の連携
松井 剛太 (香川大学)
- 9:40~ 3 ICT導入後の保育士の業務負担軽減における検討(2)
森 久美子 (純真短期大学)
大久保淳子 (白梅学園短期大学)
- 10:00~ 4 デジタル時代の保育における「中間」の意味
—「ゆらぎ」の保育学を目指して—
村上 博文 (白梅学園大学)
- 10:20~ 全体討論

研究発表 I -8

12月9日(土) 9:00~10:30

〔会場〕 2号館2階 209

現職教育(2)

座 長 岩立 京子 (東京家政大学)
久米裕紀子 (武庫川女子大学)

- 9:00~ 1 保育力の向上を考える
—幼児理解と援助のあり方—
久米裕紀子 (武庫川女子大学)
- 9:20~ 2 幼児教育アドバイザーの育成に関する現状と課題
田島 美帆 (広島大学大学院)
- 9:40~ 3 新任保育者のポジティブ感情を伴った体験の省察に関する研究
小木曾友則 (中部学院大学短期大学部)
- 10:00~ 4 カリフォルニア州における幼児理解と評価の教員研修の動向
～DRDP評価ツールを用いた教員研修システム～
室井眞紀子 (東京都市大学)
岩立 京子 (東京家政大学)
- 10:20~ 全体討論

研究発表Ⅱ-1

12月9日(土) 16:20~17:50

〔会場〕 2号館2階 202

保育思想・保育理論・保育史(1)

座長 鬢櫛久美子 (名古屋柳城女子大学)
藤井 真樹 (名古屋学芸大学)

- 16:20~ 1 教育者—子ども関係の現象学的な様相：
鯨岡峻の関係発達論とノディングズのケアリング論の比較考察
伊藤 博美 (椛山女学園大学)
- 16:40~ 2 子ども理解を前提としない保育実践の専門性
—現象学的教育学におけるタクト論から—
安部高太郎 (郡山女子大学短期大学部)
吉田 直哉 (大阪公立大学大学院)
- 17:00~ 3 シュタイナーの教育理論に基づくライゲンの意義に関する考察
近藤 千草 (目白大学)
- 17:20~ 4 フランス人幼児教育(学)者A・シャルノーは近年レッジョ・アプローチをいかに
解釈・把握したか
鈴木 幹雄 (神戸大学[名誉教授])
- 17:40~ 全体討論

研究発表Ⅱ-2

12月9日(土) 16:20~17:50

〔会場〕 2号館2階 203

現職教育(3)

座 長 加藤 望 (名古屋学芸大学)
村井 尚子 (京都女子大学)

- 16:20~ 1 保育者のリフレクション特性の傾向と分析
坂田 哲人 (大妻女子大学)
村井 尚子 (京都女子大学)
- 16:40~ 2 保育実践のリフレクションのテーマについての分析
一時間性に焦点を当てて
村井 尚子 (京都女子大学)
坂田 哲人 (大妻女子大学)
- 17:00~ 3 保育者が保育を「楽しい」と感じるプロセス
一男性保育者へのインタビューから見えたもの一
藤田 清澄 (盛岡大学)
- 17:20~ 4 保育者の省察とワークエンゲージメント
一幼児理解のプロセス時における前頭前野脳血流動態の分析より一
香曾我部琢 (宮城教育大学)
- 17:40~ 全体討論

研究発表Ⅱ-3

12月9日(土) 16:20~17:50

〔会場〕 2号館2階 204

保育者養成(2)

座 長 佐野 美奈 (常葉大学)
瀧川 光治 (大阪総合体育大学)

- 16:20~ 1 幼児と大学生の歌唱時における動作解析
佐野 美奈 (常葉大学)
- 16:40~ 2 保育・食育実践プログラム
—2専攻の横断的及び縦断的な学習プログラムの検討—
高橋 恵美 (東北生活文化大学短期大学部)
- 17:00~ 3 乳幼児親子広場における学生の学びの可視化①
主に0,1歳対象の記録から導きだす
松田 聖子 (帝京平成大学)
三島 秀晃 (帝京平成大学)
- 17:20~ 4 乳幼児親子広場における学生の学びの可視化②
主に2,3歳対象の記録から導きだす
三島 秀晃 (帝京平成大学)
松田 聖子 (帝京平成大学)
- 17:40~ 全体討論

研究発表Ⅱ-4

12月9日(土) 16:20~17:50

〔会場〕 2号館2階 205

多文化共生(1)

座 長 北野 幸子 (神戸大学大学院)
名倉 一美 (佐賀大学)

- 16:20~ 1 ニュージーランドにおける保育施設と保健・福祉分野との連携に関する法制度
松山 聖奈 (神戸大学大学院生)
北野 幸子 (神戸大学大学院)
- 16:40~ 2 乳幼児の脱文脈化発話の理解と発達における非言語コミュニケーションの役割と重要性
杉本 貴代 (愛知大学短期大学部)
中川 亜子 (和敬愛育園)
- 17:00~ 3 OECDのStarting Strongシリーズにおける「多様性」に関する記述分析
名倉 一美 (佐賀大学)
- 17:20~ 4 ドイツの総合幼児教育施設におけるインクルーシブ教育実践の実態
—専門家養成および継続教育に着目して—
相賀 頌子 (横浜創英大学)
江島絵理子 (横浜創英大学)
- 17:40~ 全体討論

研究発表Ⅱ-5

12月9日(土) 16:20~17:50

〔会場〕 2号館2階 206

乳幼児と食

座 長 大方 美香 (大阪総合保育大学)
永渕美香子 (中村学園大学短期大学部)

- 16:20~ 1 幼稚園における保育と栄養の協働型食育プログラムの効果(1)
多角的な食育の視点から
永渕美香子 (中村学園大学短期大学部)
梅木 陽子 (福岡女子大学)
- 16:40~ 2 幼稚園における保育と栄養の協働型食育プログラムの効果(2)
家庭の食習慣の視点から
梅木 陽子 (福岡女子大学)
永渕美香子 (中村学園大学短期大学部)
- 17:00~ 3 食後の給食場面における保育者の即興的判断に関する一考察
—椅子の上に立つ子どもへの対応に着目して—
曾 玉儒 (広島大学大学院生)
- 17:20~ 4 保育者の資質向上の視点
—春野菜栽培の知識より—
鈴木えり子 (華頂短期大学)
- 17:40~ 全体討論

研究発表Ⅱ-6

12月9日(土) 16:20~17:50

〔会場〕 2号館2階 207

保育環境・保育方法

座長 青木 一永 (社会福祉法人檸檬会)
原田美代子 (四国大学短期大学部)

- 16:20~ 1 自然が限定された保育施設でも実践可能な創造性を育む自然保育プログラムの開発
原田美代子 (四国大学短期大学部)
- 16:40~ 2 幼児教育におけるSDGsの「全人教育」的解釈(3)
—日々の生活の積み上げから—
河合 光利 (玉川大学・非)
永井理恵子 (帝京短期大学)
- 17:00~ 3 森のようちえんにおける保育者の遊びへのかかわりに関する研究
—教示的無関心という視点から—
大野 歩 (山梨大学)
七木田 敦 (広島大学大学院)
- 17:20~ 4 夕方時間帯の保育における特徴の研究 その1
—保育施設でのフィールドワークを通して—
石川 徹 (広島大学大学院)
- 17:40~ 全体討論

研究発表Ⅱ-7

12月9日(土) 16:20~17:50

〔会場〕 2号館2階 208

子どもの権利

座 長 上村 晶 (桜花学園大学)
西村 真実 (武庫川女子大学)

- 16:20~ 1 日本と韓国における「子どもの権利」に関するアンケート調査
—保育者研修の受講実態を中心に—
崔 美美 (千葉大学)
秋田喜代美 (学習院大学)
- 16:40~ 2 0,1歳児担当保育者は子どもとの応答的な関わりをどのように省察しているのか
—保育の省察後における変化に着目して—
武藤 直子 (桜花学園大学)
上村 晶 (桜花学園大学)
- 17:00~ 3 保育経験者が育児担当制に順応するプロセスⅠ
—新たな保育方法との出会いと実践で得た実感から—
水枝谷奈央 (玉川大学・非)
西村 真実 (武庫川女子大学)
土田 珠紀 (西南学院早緑子供の園)
鎮 朋子 (梅花女子大学)
- 17:20~ 4 保育経験者が育児担当制に順応するプロセスⅡ
—一人ひとりの子どもを尊重する保育の実践と展望—
西村 真実 (武庫川女子大学)
水枝谷奈央 (玉川大学・非)
土田 珠紀 (西南学院早緑子供の園)
鎮 朋子 (梅花女子大学)
- 17:40~ 全体討論

研究発表Ⅱ-8

12月9日(土) 16:20~17:50

〔会場〕 2号館2階 209

多文化共生(2)

座長 岡花祈一郎 (琉球大学)
西村 実穂 (東京未来大学)

- 16:20~ 1 外国につながる子どもの変容過程から見る保育者や仲間の対応についての一考察
—ある中国人女兒の観察を中心に—
永井瑛里子 (文京学院大学大学院)
- 16:40~ 2 日本の保育所・幼稚園を利用する外国籍の保護者の支援に関する研究2
—保育者へのアンケート調査から—
西村 実穂 (東京未来大学)
徳田 克己 (アール医療専門職大学)
- 17:00~ 3 保育者における萌芽的リテラシー環境に関する意識の違い：
クラスにおける外国籍幼児数に着目して
篠沢 薫 (洗足こども短期大学)
松寄 洋子 (明治学院大学)
- 17:20~ 4 多文化共生保育における保育者の葛藤
富田 雅子 (広島文化学園短期大学)
- 17:40~ 全体討論

研究発表Ⅲ-1

12月10日（日） 9：00～10：30

〔会場〕 2号館2階 204

幼児理解

座 長 小川 房子 （武蔵野大学）
保木井啓史 （福島大学）

9：00～ 1 子どもとの関係構築プロセスの可視化による保育者の意識変容の諸相
上村 晶 （桜花学園大学）

9：20～ 2 保育場面と心情の読み取りにおける多様性の要因
—保育者の幼少期の経験との関連性を手掛かりに—
兼間 和美 （武蔵野大学しあわせ研究所）
石田由紀子 （武蔵野大学しあわせ研究所）
小川 房子 （武蔵野大学）

9：40～ 3 保育施設の片付け場面における子どものエイジェンシーに関する研究
保木井啓史 （福島大学）

10：00～ 全体討論

研究発表Ⅲ-2

12月10日（日） 9：00～10：30

〔会場〕 2号館2階 205

保育制度・保育カリキュラム

座 長 上山瑠津子 （福山市立大学）
滝口 圭子 （金沢大学）

- 9：00～ 1 保育カリキュラム研修を通じた保育士の学びと変化
—A 公立保育所の取り組みから—
上山瑠津子 （福山市立大学）
津川 典子 （広島県乳幼児教育支援センター）
- 9：20～ 2 主任保育者が捉える「保育者1人あたりの子どもの数」と「保育の質」の関連性に関する研究
—園規模の違いに着目して—
鈴木捺津美 （桜花学園大学大学院生）
- 9：40～ 3 タイ王国『幼児教育カリキュラム』2017年版改訂と2003年版との比較分析
高橋 順子 （学習院大学大学院）
- 10：00～ 4 保育のなかの科学につながる探究場面の保育者の解釈
滝口 圭子 （金沢大学）
- 10：20～ 全体討論

研究発表Ⅲ-3

12月10日（日） 9：00～10：30

〔会場〕 2号館2階 206

障害児・者への支援(1)

座 長 神長美津子（大阪総合保育大学）
永瀬 開（山口県立大学社会福祉学部附属子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所）

9：00～ 1 保護者の回想（TEM図）から考察する発達障害児の就学前後の課題
森 依子（東九州短期大学）

9：20～ 2 昭和・平成期の保育における障害児への関わり
—保育者の語りの分析より—
佐藤 智恵（神戸親和大学）

9：40～ 3 「気になる子ども」支援における保育者の専門性の検討
永瀬 開（山口県立大学社会福祉学部附属子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所）
井辺 和杜（山口県立大学社会福祉学部附属子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所）
横山 順一（山口県立大学社会福祉学部附属子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所）
藤田 久美（山口県立大学社会福祉学部附属子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所）

10：00～ 全体討論

研究発表Ⅲ-4

12月10日(日) 9:00~10:30

〔会場〕 2号館2階 207

保育者の専門性(1)

座長 垂見 直樹 (近畿大学九州短期大学)
中坪 史典 (広島大学)

9:00~ 1 熟達した保育者は自園の組織学習をどのように振り返るか
垂見 直樹 (近畿大学九州短期大学)

9:20~ 2 保育領域におけるリーダーシップ研究の現状：
分散型・シェアド・インクルーシブリーダーシップへの着目
小林 佳美 (川口短期大学)

9:40~ 3 公立幼稚園におけるミドルリーダーの経験の径路：
一採用2年目で主任となった保育者の事例から一
中坪 史典 (広島大学)
箕輪 潤子 (武蔵野大学)
秋田喜代美 (学習院大学)
門田 理世 (西南学院大学)
鈴木 正敏 (兵庫教育大学)
上田 敏丈 (名古屋市立大学)
野口 隆子 (東京家政大学)
椋田 善之 (関西国際大学)
淀川 裕美 (千葉大学)

10:00~ 全体討論

研究発表Ⅲ-5

12月10日(日) 9:00~10:30

〔会場〕 2号館2階 208

保育者の専門性(2)

座長 井上真理子 (洗足こども短期大学)
木村 達志 (桜花学園大学)

- 9:00~ 1 保育者における自律的な感情労働の自覚が保護者支援に及ぼす影響
—保育者のストレス・効力感の変化に着目して—
森本紗貴子 (愛知県清須市須ヶ口保育園)
木村 達志 (桜花学園大学)
- 9:20~ 2 保育者の研修のあり方
—競技型ディベートとピアインストラクション—
副島 里美 (静岡県立大学短期大学部)
- 9:40~ 3 初任保育者の職場適応に関する研究
—「スタートアップ・ガイド」の構築をめざして—
橋本 信子 (安田女子短期大学)
矢野 光恵 (安田女子短期大学)
- 10:00~ 4 保育者の職場に対する「心理的安全性」と組織の質に関する研究
～保育者の学びと成長が保障される組織要因と管理職のリーダーシップ～
井上真理子 (洗足こども短期大学)
松井 剛太 (香川大学)
田澤 里喜 (玉川大学)
- 10:20~ 全体討論

研究発表Ⅲ-6

12月10日(日) 9:00~10:30

〔会場〕 2号館2階 209

健康・保健・Covid-19・ジェンダー

座長 天野美和子 (東海大学)
三宅 茂夫 (神戸女子大学)

9:00~ 1 コロナ禍の幼児教育施設における乳幼児の人との関わりに関する研究
—高齢者・小学生・中高生との触れ合いについて—
天野美和子 (東海大学)

9:20~ 2 保育者の潜在的なジェンダー観を探る
磯村 正樹 (椋山女学園大学)
鳶田 弘子 (名古屋短期大学)

9:40~ 3 空港に設置されているカームダウンスペースの問題点
徳田 克己 (アール医療専門職大学)
水野 智美 (筑波大学)

10:00~ 全体討論

研究発表Ⅳ-1

12月10日（日） 10：50～12：20

〔会場〕 2号館2階 204

子育て支援・子育て環境(1)

座 長 桂田恵美子（関西学院大学）
鈴木 裕子（愛知教育大学）

10：50～ 1 保護者は幼児の遊び場をどのように捉えるか
—保育者と保護者の比較から—

木田 千晶（岡崎女子短期大学）

鈴木 裕子（愛知教育大学）

11：10～ 2 乳幼児と養育者の相互交渉を主としたリトミックプログラムの開発

小池美知子（松山東雲女子大学）

安藤 千秋（香川短期大学）

赤澤 淳子（福山大学）

桂田恵美子（関西学院大学）

11：30～ 3 乳幼児と養育者の相互交渉を主としたリトミックプログラムの試験的効果検証

桂田恵美子（関西学院大学）

小池美知子（松山東雲女子大学）

安藤 千秋（香川短期大学）

赤澤 淳子（福山大学）

11：50～ 4 韓国の地下鉄における妊婦優先席の使用状況の変化

水野 智美（筑波大学）

徳田 克己（アール医療専門職大学）

12：10～ 全体討論

研究発表Ⅳ-2

12月10日（日） 10：50～12：20

〔会場〕 2号館2階 205

乳幼児期の遊び

座 長 小谷 卓也 （大阪大谷大学）
平松美由紀 （環太平洋大学）

- 10：50～ 1 子どもの遊びを形成する先行体験についてⅡ
松本 純子 （東京成徳短期大学）
- 11：10～ 2 3歳児の水を用いる遊びに関する研究
平松美由紀 （環太平洋大学）
- 11：30～ 3 子どもにとっての“好きな遊び”が持つ意味とは
清水 憲志 （中国短期大学）
- 11：50～ 4 「かがく遊び」における物的環境の違いによる探索行動の特徴
— 1歳児の「物の浮き沈み遊び」を事例として—
小谷 卓也 （大阪大谷大学）
- 12：10～ 全体討論

研究発表Ⅳ-3

12月10日（日） 10：50～12：20

〔会場〕 2号館2階 206

乳幼児と言葉・児童文学

座 長 田中 卓也 （育英大学）

戸田 大樹 （創価大学）

- 10：50～ 1 幼稚園と保育所の5歳児クラスの集団の絵本の読み聞かせ場面に関する検討
呂 小耘 （帝京大学）
- 11：10～ 2 『理化少年』に関する研究
—読者における科学心の育成を中心に—
田中 卓也 （育英大学）
- 11：30～ 3 保育経験5年未満保育者の3歳児に対する言葉かけ技法に関する実証的研究
戸田 大樹 （創価大学）
- 11：50～ 4 自己理解の手掛かりとしての「自分ものがたり」とこれを保育者としてのまなざしに活かす試み
相沢 和恵 （元 浦和大学）
- 12：10～ 全体討論

研究発表V-1

12月10日(日) 15:10~16:40

〔会場〕 2号館2階 204

乳児保育・1,2歳児保育(2)

座長 安藤 香 (名古屋芸術大学)
西本 望 (武庫川女子大学)

15:10~ 1 0歳児クラスにおける複数担任間の相互理解プロセス
—非常勤保育者Dの語りに着目して—
亀井 慶子 (名古屋市立大学大学院)

15:30~ 2 保育において乳児が集団に適応するとは
後藤 由美 (名古屋柳城短期大学)
鈴木 裕子 (愛知教育大学)

15:50~ 3 保育施設における1歳児の社会生活について
—仲間に働きかける行為に着目して—
岡南 愛梨 (お茶の水女子大学大学院生)

16:10~ 全体討論

研究発表V-2

12月10日(日) 15:10~16:40

〔会場〕 2号館2階 205

障害児・者への支援(2)

座 長 藤田 久美 (山口県立大学)
水野 智美 (筑波大学)

- 15:10~ 1 発達障害傾向のある子どもにおける感覚異常に関する文献検討1
—感覚特性と日常生活での具体的な支援方法—
坂場 菜子 (筑波大学大学院)
水野 智美 (筑波大学)
- 15:30~ 2 保育施設における研修・相談支援体制
—「気になる子ども」の保育に関するアンケート調査の結果から—
井辺 和杜 (山口県立大学)
横山 順一 (山口県立大学)
永瀬 開 (山口県立大学)
藤田 久美 (山口県立大学)
- 15:50~ 3 ADHD不注意傾向のある幼児の保育に関する研修プログラムの効果検証(2)
—ADHD不注意傾向のある幼児に関する認識と対応の分析—
水野 裕子 (東京家政大学・非)
- 16:10~ 4 自閉スペクトラム症幼児の早期支援のあり方
—一人とのかかわりや社会的遊びをつくりだす支援をもとに—
藤田 久美 (山口県立大学)
永瀬 開 (山口県立大学)
横山 順一 (山口県立大学)
井辺 和杜 (山口県立大学)
- 16:30~ 全体討論

研究発表V-3

12月10日(日) 15:10~16:40

〔会場〕 2号館2階 206

乳幼児と表現(2)

座長 富田 昌平 (三重大学)
水崎 誠 (東京学芸大学)

- 15:10~ 1 5歳児の表現遊びの検討
—「スイミー」の劇遊びを通して—
稲田 公子 (福岡女学院大学)
- 15:30~ 2 5歳児のクラス活動における幼児の表現
水崎 誠 (東京学芸大学)
- 15:50~ 3 自由遊び場面での楽器を用いた音楽表現における幼児の模倣
—模倣の要素及び楽器の特性に着目した分析—
兜森 千可 (青森県八戸市立根城小学校)
- 16:10~ 4 幼児の保育室の楽器とのかかわりに関する研究Ⅱ
乙部はるひ (帝京平成大学)
- 16:30~ 全体討論

研究発表V-4

12月10日(日) 15:10~16:40

【会場】 2号館2階 207

子育て支援・子育て環境(2)

座長 境 愛一郎 (共立女子大学)
本岡美保子 (比治山大学)

- 15:10~ 1 幼稚園の保護者会主催行事に対する成員の意味付けの変遷：
保護者会報誌のバザーに関する記述から
境 愛一郎 (共立女子大学)
栗原 啓祥 (清心幼稚園)
- 15:30~ 2 都道府県による乳幼児教育に関する共通理解を形成するための取組み
— 一家庭への情報発信を中心に —
清山 莉奈 (関西保育福祉専門学校)
北野 幸子 (神戸大学大学院)
- 15:50~ 3 母親の捉える保育士との関係構築のプロセス
— 保育者との信頼関係構築に至らなかった母親の語りに注目して —
福井 千夏 (愛知学泉短期大学)
寫田 弘子 (名古屋短期大学)
- 16:10~ 4 子どもは次子出生による同胞葛藤をどう経験しているのか
— 「出産ごっこ」の現象学的分析から —
本岡美保子 (比治山大学)
- 16:30~ 全体討論

研究発表V-5

12月10日(日) 15:10~16:40

〔会場〕 2号館2階 208

保育思想・保育理論・保育史(2)

座 長 卜田真一郎 (常磐会短期大学)

吉田 直哉 (大阪公立大学)

- 15:10~ 1 持田栄一の「生涯教育論」批判の背景にある近代教育観
吉田 直哉 (大阪公立大学)
- 15:30~ 2 戦前の季節保育所における乳児保育の受け入れと実際
相樂真樹子 (淑徳大学短期大学部)
- 15:50~ 3 大場牧夫の『幼児の生活とカリキュラム』の検討
—集団生活の構造化における個の扱いに着目して—
武内 裕明 (弘前大学)
- 16:10~ 4 長期継続的・主体的研究を重視した現任保育士の学び直しの意義
—愛知県立保育学校「研究課程」の実践から—
小田 良枝 (名古屋芸術大学)
豊田 和子 (名古屋柳城女子大学)
- 16:30~ 全体討論

研究発表V-6

12月10日（日） 15：10～16：40

〔会場〕 2号館2階 209

保育の質と評価

座 長 二井紀美子 （愛知教育大学）
野澤 祥子 （東京大学）

- 15：10～ 1 子どもが主体となる、幼児期ならではの茶道との出会い①
～幼児の茶道ガイドライン作成への道のり～
上林那津子 （社会福祉法人檸檬会）
- 15：30～ 2 ブラジルにおける幼児教育の質の評価
二井紀美子 （愛知教育大学）
- 15：50～ 3 3歳未満児クラスの運営と保育プロセスの質との関連の検討：
「保育の質と子どもの発達に関する縦断的研究」から
野澤 祥子 （東京大学）
香曾我部琢 （宮城教育大学）
佐川早季子 （京都教育大学）
高橋 翠 （東京大学）
滝口 圭子 （金沢大学）
松井 剛太 （香川大学）
淀川 裕美 （千葉大学）
遠藤 利彦 （東京大学）
秋田喜代美 （学習院大学）
- 16：10～ 4 指導計画の実践の評価と子ども理解
—授業「カリキュラム論」クラスだより分析を通して—
前田 和代 （東京家政大学）
- 16：30～ 全体討論

人名索引

大会企画シンポ：大会企画シンポジウム

学会企画シンポ：学会企画シンポジウム

自主シンポ：自主シンポジウム

— あ —

相賀 頌子 研究発表 I-5
研究発表 II-4
相沢 和恵 研究発表 IV-3
青山 佳代 自主シンポ I-2
赤澤 淳子 研究発表 IV-1
秋田喜代美 研究発表 II-7
研究発表 III-4
研究発表 V-6
浅井 幸子 研究発表 I-4
安部高太朗 研究発表 II-1
天野美和子 研究発表 III-6
安藤 香 研究発表 I-3
安藤 千秋 研究発表 IV-1

— い —

石川 拓次 自主シンポ III-1
石川 徹 研究発表 II-6
石田由紀子 研究発表 III-1
石丸 るみ 自主シンポ I-5
磯村 正樹 研究発表 I-5
研究発表 III-6
伊藤 博美 研究発表 II-1
伊藤美保子 自主シンポ I-1
稲田 公子 研究発表 V-3
井上真理子 研究発表 III-5
今津 香 研究発表 I-4
林 韓燮 自主シンポ I-4
岩立 京子 学会企画シンポ
研究発表 I-8
井辺 和杜 研究発表 III-3
研究発表 V-2

— う —

植田恵理子 自主シンポ II-2
上田 敏丈 研究発表 III-4
上村 晶 研究発表 II-7
研究発表 III-1
上山瑠津子 研究発表 III-2
内田 千春 自主シンポ IV-2
梅木 陽子 研究発表 II-5

— え —

江島絵理子 研究発表 I-5
研究発表 II-4
遠藤 利彦 研究発表 V-6

— お —

大方 美香 自主シンポ I-5
大久保淳子 自主シンポ II-3
研究発表 I-7
大澤 洋美 自主シンポ II-4
大野 歩 研究発表 II-6
大橋 渉 研究発表 I-3
岡南 愛梨 研究発表 V-1
岡花祈一郎 学会企画シンポ

自主シンポ III-3

岡本 美幸 研究発表 I-4
小川 房子 研究発表 III-1
小田 良枝 研究発表 V-5
乙部はるひ 研究発表 V-3
表 夏子 研究発表 I-6

— か —

寛 有子 自主シンポ II-2
片山 伸子 自主シンポ I-2
勝野 愛子 大会企画シンポ
桂田恵美子 研究発表 IV-1
加藤 望 自主シンポ IV-2
門田 理世 研究発表 III-4
金子 嘉秀 研究発表 I-6
兼間 和美 研究発表 III-1
兜森 千可 研究発表 V-3
鎌内 菜穂 研究発表 I-3
神長美津子 自主シンポ I-5
上林那津子 研究発表 V-6
亀井 慶子 研究発表 V-1
川合真由美 研究発表 I-3
河合 光利 研究発表 II-6
河邊 貴子 自主シンポ III-3
川村 高弘 自主シンポ II-2

— き —

木田 千晶 研究発表 IV-1
北野 幸子 研究発表 II-4
研究発表 V-4
木村 達志 研究発表 III-5
木元 有香 学会企画シンポ
清原みさ子 自主シンポ I-2

— く —

熊田 凡子 自主シンポ IV-3
久米裕紀子 研究発表 I-8
倉盛美穂子 自主シンポ III-3
栗原 啓祥 研究発表 V-4
久留島太郎 自主シンポ II-4

— こ —

小池美知子 研究発表 IV-1
小井塚ななえ 研究発表 I-2
香曾我部琢 大会企画シンポ
自主シンポ III-4
研究発表 II-2
研究発表 V-6
研究発表 I-8
小谷 卓也 自主シンポ I-3
研究発表 IV-2
研究発表 V-1
小林由利子 研究発表 I-2
小林 佳美 研究発表 III-4
近藤 千草 研究発表 II-1

— さ —

齊藤 崇 自主シンポ III-2
境 愛一郎 研究発表 V-4
坂田 哲人 研究発表 II-2
坂無 淳 自主シンポ II-3
坂場 菜子 研究発表 V-2
相樂真樹子 研究発表 V-5
佐川早季子 研究発表 V-6
佐々木 晃 教育講演
佐藤 智恵 研究発表 III-3
佐野 美奈 研究発表 II-3

— し —

鎮 朋子 研究発表 II-7
篠沢 薫 研究発表 II-8
柴田 雅博 自主シンポ II-3
島川 香織 研究発表 I-2
嵩田 弘子 研究発表 I-5
研究発表 III-6
研究発表 V-4
清水 憲志 研究発表 IV-2
清水 陽子 自主シンポ II-1
卜田真一郎 自主シンポ III-1
白井由希子 自主シンポ III-1
白石 雅紀 自主シンポ III-1

— す —

杉本 貴代 研究発表 II-4
杉山 健人 自主シンポ II-4
杉山 和 研究発表 I-5
鈴木えり子 研究発表 II-5
鈴木捺津美 研究発表 III-2
鈴木 正敏 研究発表 III-4
鈴木 幹雄 研究発表 II-1
鈴木 裕子 研究発表 IV-1
研究発表 V-1

— せ —

清山 莉奈 研究発表 V-4

— そ —

曾 玉儒 研究発表 II-5
副島 里美 研究発表 III-5

— た —

高瀬 慎二 自主シンポ I-4
高橋 恵美 研究発表 II-3
高橋 順子 研究発表 III-2
高橋 翠 研究発表 V-6
滝口 圭子 自主シンポ I-3
研究発表 III-2
研究発表 V-6
武内 裕明 自主シンポ III-3
研究発表 V-5
田澤 里喜 研究発表 III-5
田島 大輔 研究発表 I-3

田島 美帆 研究発表 I-8
 田中 卓也 自主シンポ II-2
 研究発表 IV-3
 谷 昌代 自主シンポ IV-3
 垂見 直樹 研究発表 III-4

— ち —

崔 美美 研究発表 II-7

— つ —

津川 典子 研究発表 III-2
 土田 珠紀 研究発表 II-7

— と —

徳田 克己 研究発表 II-8
 研究発表 III-6
 研究発表 IV-1
 戸田 大樹 研究発表 IV-3
 富田 昌平 自主シンポ I-3
 富田 雅子 研究発表 II-8
 豊田 和子 自主シンポ I-2
 研究発表 V-5

— な —

永井瑛里子 研究発表 II-8
 永井理恵子 研究発表 II-6
 中川 亜子 研究発表 II-4
 中川 順子 自主シンポ III-4
 長崎 元気 自主シンポ I-3
 長澤 貴 自主シンポ III-1
 中島 眞吾 自主シンポ II-2
 中島 緑 自主シンポ II-2
 永瀬 開 研究発表 III-3
 研究発表 V-2
 中田 範子 自主シンポ I-5
 中坪 史典 自主シンポ IV-2
 研究発表 I-6
 研究発表 III-4
 長野 未来 自主シンポ I-1
 永瀧美香子 研究発表 II-5
 名倉 一美 研究発表 II-4
 七木田 敦 学会企画シンポ
 自主シンポ III-4
 研究発表 I-6
 研究発表 II-6

— に —

二井紀美子 研究発表 V-6
 西 隆太郎 自主シンポ I-1
 西井 宏之 自主シンポ II-4
 西田 明史 自主シンポ II-2
 西村 真実 研究発表 II-7
 西村 実穂 研究発表 II-8
 二宮 祐子 大会企画シンポ

— の —

野口 隆子 研究発表 I-1
 研究発表 III-4
 野澤 祥子 研究発表 I-4
 研究発表 V-6

野田さとみ 自主シンポ I-4

— は —

Park, Jin Ock 自主シンポ II-1
 橋本 信子 研究発表 III-5
 長谷川幸男 自主シンポ IV-1
 濱名 潔 大会企画シンポ
 自主シンポ I-1
 林 恵 自主シンポ III-1
 原田美代子 研究発表 II-6

— ひ —

肥田 武 自主シンポ IV-2
 平松 知子 学会企画シンポ
 平松美由紀 研究発表 IV-2
 鬢楠久美子 自主シンポ I-4

— ふ —

福井 千夏 研究発表 V-4
 藤井 千里 自主シンポ IV-3
 藤井 真樹 大会企画シンポ
 藤田 久美 研究発表 III-3
 研究発表 V-2
 藤田 清澄 研究発表 II-2

— ほ —

保木井啓史 研究発表 III-1
 堀越 紀香 研究発表 I-1
 本江 理子 自主シンポ IV-3

— ま —

前川 豊子 研究発表 I-2
 前田 和代 研究発表 V-6
 前田 寛子 研究発表 I-7
 松井 剛太 研究発表 I-7
 研究発表 III-5
 研究発表 V-6
 松崎 洋子 研究発表 I-1
 研究発表 II-8
 松田 聖子 研究発表 II-3
 松田 登紀 研究発表 I-1
 松原 豊 自主シンポ IV-1
 松村 齋 自主シンポ II-2
 松本 純子 研究発表 IV-2
 松本真理子 自主シンポ II-1
 松山 聖奈 研究発表 II-4
 丸山ちはや 自主シンポ II-2

— み —

水枝谷奈央 研究発表 II-7
 三木 健郎 自主シンポ III-2
 三品 陽平 自主シンポ I-4
 三島 秀晃 研究発表 II-3
 水崎 誠 研究発表 V-3
 水野佳津子 自主シンポ II-4
 研究発表 I-6
 水野 智美 研究発表 III-6
 研究発表 IV-1
 研究発表 V-2
 水野 裕子 研究発表 V-2

箕輪 潤子 研究発表 III-4
 宮田まり子 自主シンポ II-4
 宮地あゆみ 自主シンポ II-1
 三輪 雅美 自主シンポ I-4

— む —

椋田 善之 研究発表 III-4
 武藤 直子 研究発表 II-7
 村井 尚子 研究発表 II-2
 村上 博文 研究発表 I-7
 村田あゆみ 自主シンポ I-2
 室井眞紀子 研究発表 I-8

— も —

最上 秀樹 研究発表 I-6
 本岡美保子 自主シンポ I-1
 研究発表 V-4
 森 久美子 自主シンポ II-3
 研究発表 I-7
 守 巧 自主シンポ IV-1
 森 依子 研究発表 III-3
 森田水加穂 自主シンポ III-4
 森本紗貴子 研究発表 III-5

— や —

矢崎桂一郎 研究発表 I-5
 安井 良尚 研究発表 I-2
 安氏 洋子 自主シンポ II-2
 矢野 キエ 自主シンポ III-2
 矢野 光恵 研究発表 III-5
 山縣 文治 学会企画シンポ
 山下 文一 自主シンポ I-5
 やまだようこ 記念講演
 山本 聡子 自主シンポ I-2

— よ —

横井 紘子 研究発表 I-1
 横山 順一 研究発表 III-3
 研究発表 V-2
 吉田 貴子 研究発表 I-5
 吉田 直哉 研究発表 II-1
 研究発表 V-5
 淀川 裕美 研究発表 III-4
 研究発表 V-6

— り —

劉 梅 研究発表 I-4

— ろ —

呂 小耘 研究発表 IV-3

— わ —

若月 芳浩 自主シンポ IV-1
 渡邊 拓真 自主シンポ III-4
 渡辺ユリナ 研究発表 I-1

日本乳幼児教育学会 第33回大会 実行委員会

大会実行委員長	上田 敏文（名古屋市立大学）
大会事務局長	上村 晶（桜花学園大学）
実行委員	安藤 香（名古屋芸術大学）
	内田 将平（桜花学園大学）
	勝浦 眞仁（同志社女子大学）
	勝野 愛子（同朋大学）
	加藤 望（名古屋学芸大学）
	川合真由美（名古屋市立大学大学院人間文化研究科研究員）
	鬼頭 弥生（名古屋短期大学）
	杉山 和（名古屋市立大学大学院人間文化研究科研究員）
	谷口 良美（愛知みずほ短期大学）
	藤井 真樹（名古屋学芸大学）
	松井奈都子（名古屋市立大学大学院人間文化研究科研究員）
	松園 直美（名古屋市立大学大学院人間文化研究科研究員）
	武藤 直子（桜花学園大学）
	吉田 真弓（名古屋短期大学）
運営協力者	鈴木 繁聡（東京大学大学院教育学研究科博士課程）
	鈴木捺津美（桜花学園大学大学院人間文化研究科修士課程）
	瀬古 杏南（名古屋市立大学大学院人間文化研究科博士課程）
	長野 未来（名古屋市立大学大学院人間文化研究科博士課程）

日本乳幼児教育学会 第33回大会プログラム

発行日	2023年11月9日
発行者	日本乳幼児教育学会第33回大会実行委員会
実行委員長	上田 敏文
作成	名鉄観光サービス(株) 仙台支店

日本乳幼児教育学会 第33回大会 協賛団体ご芳名

(五十音順・敬称略)

広告協賛

株式会社 明石書店

株式会社 風間書房

株式会社 北大路書房

教育情報出版

株式会社 新宿スタジオ

トロル

株式会社 萌文書林

株式会社 ミネルヴァ書房

大会を開催するにあたり、上記機関・企業・団体等より多大な賛助や広告掲載をいただきました。

ここにそのご芳名を記して、心より感謝の意を表します。

2023年12月吉日

実行委員長 上田 敏丈

北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8

☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393

https://www.kitaohji.com(価格税込)

子どもの遊びを考える

—「いいこと思いついた！」から見えてくること— 佐伯 胖編著 四六・248頁・定価2640円 「遊び=自発的な活動」というのは本当か?! 「いいこと思いついた!」という現象を切り口に、「中動態」や「天然知能」などの概念を参照しながら、子どもの「遊び」の本質に迫る。

大豆生田啓友対談集 保育から世界が変わる

近刊 大豆生田啓友ほか著 保育・幼児教育の変革期にあるいまだからこそ、議論すべきことがある。保育とは、教育とは、子どもにとって、親にとって…。そもそも子どもとは、生きるとは、……。保育から世界を変えよう。未来の社会・文化を創造するために、多領域の研究者や実践者、作家などと「子どもを真ん中に置いて」語り合う。

愛と知の循環としての保育

—世界を愛することを学ぶ 幼児教育私論— 近刊 無藤 隆著 保育とは「愛と知の循環である」——数十年にわたり日本の保育・教育界をリードし続ける無藤隆氏の集大成。知的な関わりと情動的な関わりが循環的に発展するというあり方、その実現が保育・幼児教育の要であるという「愛と知の循環」論をはじめ、これからの幼児教育・保育の理論的基盤を構築する。

絵本で実践 アニマシオン

—子どもたちの力を引き出す26のプログラム— 近刊 「読書を通して、子どもの力を引き出す」指導メソッド、アニマシオン。乳幼児期を対象にした読解、コミュニケーション能力、観察力、表現力など様々な力を育成する26のプログラム「絵本」によるアニマシオンの理論と実践を解説。単なる読解力育成にとどまらず、文化創造の担い手としての子どもの育成をめざす。

ニューロマイノリティ

—発達障害のある子どもたちを内側から理解する— 近刊 横道 誠、青山 誠編著 ニューロマイノリティとして生きている子どもたち、いわゆる「発達障害児」の体験世界を彼ら固有の文脈の側から把握し、その全体を明らかにする。この視点から発達障害を捉えなおし、当事者・支援者・研究者が一体となって「発達障害理解」に革命を起こす。

個別最適な学びと協働的な学び

—有能な学び手としての子どもと教師の専門性— 近刊 奈須正裕、伏木久始編著 令和時代に求められる「すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学び」とは何か。学校教育における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実を目指して、現状において考えうる多様な回答を理論と実践の両側面から整理し、多角的に検討する。

シリーズ主体としての子どもが育つ 保育内容「人間関係」

無藤 隆監修 古賀松香編著 2023年12月発行予定 「保育者が子どもの主体性を育む」のではなく、「子どもが主体として育つ」ことを支える保育実践のあり方とは? 「人間関係」の視点から、良質な事例(動画も含む)を通して「主体としての子ども」の育ちに迫る。学生もこれからの時代を主体的に子どもとともに生きる保育者のための新しいテキスト!

非認知能力

—概念・測定と教育の可能性— 小塩真司編著 A5・320頁・定価2860円 「人間力」「やりぬく力」など漠然とした言葉に抱えず、心理学の知見から明快に論じる。誠実性、グリット、好奇心、自己制御、楽観性、レジリエンス、マインドフルネスなど関連する15の心理特性を取りあげ、教育や保育の現場でそれらを育む可能性を展望する。

持続可能な社会をめざす 0歳からの保育

井上美智子、登美丘西こども園著 定価2420円

デジタル社会の子どもを育む 保育内容 健康

田口喜久恵編著 定価2640円

発達心理学15講

高橋一公、中川佳子編著 定価2420円

北欧スウェーデン発 科学する心を育てるアウトドア活動事例集

C. ブレイジ著/西浦和樹編訳 定価2420円

社会情動的スキルを育む(保育内容 人間関係)

無藤 隆、古賀松香編著 定価2530円

「気になる」子どもの社会性発達の理解と支援

本郷一夫編著 定価1980円

子どもの育ちをとりえるラーニング・ストーリー

穴戸良子、三好伸子著 定価2420円

はじめて学ぶ保育原理【新版】

吉見昌弘、斎藤 裕編著 定価2420円

行列のできる児童相談所

井上 景著 定価2530円

繊細さとダイナミックさが入りまじる保育者の専門性の発現をとらえる



保育者の身体的・状況的専門性

—保育実践のダイナミック・プロセスの中で発現する専門性とは—

古賀松香 著
B5判 397頁 3630円 978-4-89347-375-2

序章 問題の所在／第1章 理論的枠組み／第2章 保育不全感の内的感知／第3章 保育不全感に及ぼす実施運営上の条件の影響／第4章 保育不全感のとらえ直し／第5章 遊びの構成と教育的瞬間の感知／第6章 長期的な育ちのとらえと教育的瞬間の感知／第7章 個の把握と構えが支える優先性の即応的判断／第8章 優先性の即応的判断に見られるプランと状況のリソース／第9章 総括的討論

多様な視点から子どもを論じる好評学術誌。第11号発刊！



子ども学 第11号 2023

編集：白梅学園大学・白梅学園短期大学子ども学研究所「子ども学」編集委員会 発売：萌文書林
B5判 242頁 1980円 978-4-89347-401-8

巻頭特集 子ども・子ども学トピックス 2023……………無藤 隆／末富 芳
特集1 トラウマインフォームドケア……………野坂祐子／坂東 希／長江美代子
特集2 外国籍の子どもたち……………南野奈津子／佐々木由美子
特集3 ヤングケアラー……………斎藤真緒／松村智史／森田久美子

◆◆ 近刊案内・好評既刊 ◆◆

- 何に困ってるの？ なぜ困ってるの？
子どもの運動の苦手さと感覚の敏感さ
—環境調整と遊びで強みを伸ばそう！—
星山麻木・伊東祐恵 著
A4変型判 176頁 予価2200円 978-4-89347-406-3
- 一人ひとりの違いを認め、勇気づけ、励ます特別支援を
障害児保育ワークブック〈第3版〉
—インクルーシブ保育・教育をめざして—
星山麻木 編著
B5判 162頁+サポートシート付 2090円
978-4-89347-409-4
- 領域に関する専門的な事項について深く学ぼう
乳幼児と人間関係
浅井拓久也 編著
B5判 160頁 予価2090円 978-4-89347-394-3
- 確かな実践力を身につける保育内容指導法(人間関係)のテキスト！
保育内容指導法〈人間関係〉
—確かな実践力を身につける—
浅井拓久也 編著
B5判 196頁 2090円 978-4-89347-395-0
- 実習での学びを広げ、現場で活躍する保育者になるためのテキスト
保育実習
—実習からの学びを広げ、深めるために—
浅井拓久也 編著 小山玲子・利根川智子・鳥海弘子 著
B5判 176頁 2090円 978-4-89347-398-1
- 保育士・幼稚園教諭養成課程「保育実践演習・教職実践演習」のテキスト
保育・教職実践演習
—実践力のある保育者を目指して—
野津直樹・宮川萬寿美 編著
B5判 174頁 2090円 978-4-89347-393-6



萌文書林 2023年秋 出版案内

※表示価格は税込定価

〒113-0021 東京都文京区本駒込6-15-11 TEL 03-3943-0576 FAX 03-3943-0567

好評発売中

新・保育の計画と評価

—理論と実践をつなぐ保育カリキュラム論—

編著 前田和代 体裁 B 5判・カラー口絵4頁・本文168頁
ISBN 978-4-909378-59-0 定価 2,200円 (本体2,000円+税)
📍 <https://kyoiku-joho.jp/hoiku/naiyo/2241>

新・保育内容「健康」

活き活きとした子どもの発育発達を求めて

編著 浮田咲子・町山太郎 体裁 A 5判・176頁
ISBN 978-4-909378-38-5 定価 2,000円 (本体1,818円+税)
📍 <https://kyoiku-joho.jp/hoiku/ryoiki/1784>

指導法もいっしょに学ぶ

保育内容「言葉」

編著 浅井拓久也 体裁 B 5判・カラー口絵4頁・本文176頁
ISBN 978-4-909378-58-3 定価 2,000円 (本体1,818円+税)
📍 <https://kyoiku-joho.jp/hoiku/ryoiki/2186>

新・保育内容総論

保育って、おもしろい

編著 前田和代 体裁 A 5判・カラー口絵4頁・本文168頁
ISBN 978-4-909378-50-7 定価 1,800円 (本体1,636円+税)
📍 <https://kyoiku-joho.jp/hoiku/naiyo/1913>

資質・能力を育む

保育内容領域 人間関係

—こどもにとっての人間関係とは—

編著 齊藤崇 体裁 B 5判・カラー口絵4頁・本文168頁
ISBN 978-4-909378-51-4 定価 2,200円 (本体2,000円+税)
📍 <https://kyoiku-joho.jp/hoiku/ryoiki/2094>

新・保育内容「環境」

ラーニング・ストーリーで綴る学びの記録

編著 永渕泰一郎 体裁 A 5判・192頁
ISBN 978-4-909378-53-8 定価 2,200円 (本体2,000円+税)
📍 <https://kyoiku-joho.jp/hoiku/ryoiki/2155>

K 図書出版・販売
教育情報出版

〒557-0055 大阪市西成区千本南 1-18-24
TEL 06-6658-8741 (代)
06-6651-5012 (編集部) HP <http://www.kyoiku-joho.jp>
FAX 06-6652-2928 MAIL info@kyoiku-joho.jp



研究・活動の成果から 映像教材を制作してみませんか？

オンラインを利用した授業や研修などが定着する中で映像の重要性が改めて見直されています。

映像作品の協同制作、受託制作で当社の映像制作のノウハウは、お客様のご要望において大きな力となると考えております。

教育現場で、または研究機関で、広く役立つ教材のアイデアやテーマがございましたら是非ご一報ください。

技術提供

- シンポジウム、講演会、セミナー等の映像撮影・音声収録
パッケージ化、データ化
- DVD、CD、Blu-rayのコピー、プレス
- 外国語版からの日本語版制作・日本語版からの外国語版制作
- ナレーション収録、選曲、音声編集

- ☞ 記録として保存
- ☞ 会報誌の付録
- ☞ インターネットでの配信
- ☞ 広報用に配布
- ☞ パッケージ化して販売

学会割引情報

当社で制作・販売しているDVD教材をご購入の際、備考欄に【JYE23】と書いていただくと、定価から20%割引されます。当社の出版ブースでもカタログ、パンフレット、割引用注文書を配布しておりますので、是非お立ち寄りください。

【注意事項】●お客様から新宿スタジオへ画像を送付ください。●制作が滞っていたり、コードの記載がないご注文は割引できません。●ネット別、アーカイブ別などの割引と併用できません。

学会割引適用期間：令和5年12月9日(土)～
令和5年12月17日(日) 23:59 ご注文分まで

映像教材と映像制作のプロフェッショナル

株式会社新宿スタジオ Video Tone Media Park

E-mail : mail@shinjuku-studio.com

TEL : 03-3379-1415 FAX : 03-3379-1480



現在まさに必要とされる学習ニーズに対応すべく、企画・出版される当社の映像ライブラリーは、幼児教育、乳幼児保育、子育て支援等、学界の第一人者による監修・指導のもと制作される優れた映像教材です。保育者養成校、保育現場、保育者研修をはじめ、多くの保育分野の皆さまにご活用いただいております。

風間書房 学術図書のご案内

マルチステークホルダーの視座からみる
保幼小連携接続—その効果と研修のあり方—

—前春子・秋田喜代美・天野美和子著 3520円

保育者は子どもとどのようにわかり合おうとするのか
上村 晶著 7150円

母子家庭へのソーシャルワーク実践モデル
久保田 純著 8250円

子どものことばとうたの結びつきに関する研究
坂井 康子著 7150円

幼児が示す規範に関する検討
辻谷真知子 著 7700円

幼児教育と小学校教育における言葉の指導の接続
吉永 安里著 6050円

保護者との関係構築に関する保育者の語りの検討
衛藤 真規著 7700円

保育所等における乳幼児ソーシャルワークに関する研究
鶴田 智子著 7150円

子どもの社会的行動のアセスメント

—早期発見と支援に生かせる乳幼児健診でのまごごと遊び— (DVD付)
神尾陽子監修／別府悦子・宮本正一編著 2970円

保育行為スタイルの生成・維持プロセスに関する研究
上田 敏丈著 6050円

保育所2歳児クラスにおける集団での対話のあり方の変化
淀川 裕美著 7150円

保育者のバーンアウトと生活リズムの関係
川俣美砂子著 6050円

子どもの不安症と抑うつ障害に対する診断横断的介入
岸田 広平著 7700円

子どもの心身症への統合的アプローチに関する臨床心理学的研究
伊東 眞里著 7150円

発達障害児者の母親の成長とその支援
辻 あゆみ著 4180円

発達検査課題の認知的要因の分析
清水 里美著 5500円

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
TEL 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

風間書房

(URL) <https://www.kazamashobo.co.jp>
メールアドレス pub@kazamashobo.co.jp (価格税込)

ペアレント・ネイション

親と保育者だけに子育てを押しつけない社会のつくり方

ダナ・サスキンド、リディア・デンワース 著
掛札逸美 訳

◎1980円

親と保育者みんなにできる、赤ちゃんの脳のつくり方から、子どもと保護者にやさしい社会のデザインへ。すべての子どもの可能性を100%活かせる世界の実現を目指して、ダナ・サスキンド博士が「3000万語の格差」執筆後にたどった道のりを描くエッセイ集。



イタリア・ピストイアの
乳幼児教育

子どもからはじまるホリスティックな育ちと学び

星三和子 著

◎3300円

遊びの中で全身・全精神をフルに発揮して自分自身を成長させる子どもたちとそれを支える大人。先進的な実践現場のそのような姿を長年にわたる調査から丹念に描き出し、社会的関係の中で感性、知性、自主性、好奇心を一体として育む教育環境をいかに創るかを考える。



子育て支援における
保育者の葛藤と専門職倫理

「子どもの最善の利益」を保障するしくみの構築にむけて

亀崎美沙子 著

◎4180円

「子どものために」と「保護者のために」。子どもの最善の利益を保障するために、子育て支援において保育者が板挟みになる葛藤の内実を分析し、判断基準・解決の手立てとして専門職倫理の必要性と有用性を研究した一冊。体系化に向けての課題も指摘。

世界の保育の質評価

制度に学び、対話をひらく

秋田喜代美、古賀松香 編著

◎3520円

諸外国では「質の高い保育」をどのように捉え、示そうとしているのか。各国の文化・社会的背景をおさえたうえで、保育の質に関する評価がどのようになされ、改善や質向上が担保されるのかを整理・分析する。日本の保育制度のさらなる発展のために。



保育の質を考える

安心して子どもを預けられる保育所の実現に向けて

近藤幹生、幸田雅治、小林美希 編著

◎2530円

昨今、保育の無償化に伴う諸問題、最低基準緩和による悪質な事業者の増加など、保育所をめぐるさまざまな課題が発生している。本書では、「保育の質」をキーワードに論点を整理し、保育所を見る目を養うことを目指す。



小児期の逆境的体験と
保護的体験

子どもの脳・行動・発達に及ぼす影響とレジリエンス

ジェニファー・ヘイズ＝グルード、アマンダ・シェフィールド・モリス 著

菅原ますみ、榎原洋一、舟橋敬一、相澤仁、加藤曜子 監訳 ◎4620円

逆境的小児期体験 (ACEs) は成人期以降の心身の健康にどのような影響をもたらすか。また、ACEs に対する解毒剤とされる保護的体験 (PACEs) とは何か。本書はアメリカ心理学会による最新の研究成果であり、逆境と回復の統合的な理解を深める一冊である。



明石書店

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5 TEL.03-5818-1171 FAX.03-5818-1174
<https://www.akashi.co.jp/> 振替00100-7-24505 *価格税込 *目録送呈

写真と図から学ぶ

赤ちゃんの姿勢運動発達

家森百合子編著 一九八五年刊行のロングセラーをさらにわかりやすく・見やすく・現場で使える一冊として全面改訂した、決定版。
3080円

実践につながる新しい乳児保育 ともに育ち合う
保育の原点がここに

大浦賢治編著 「乳児保育Ⅰ」「乳児保育Ⅱ」のテキスト。各年齢段階の発達過程をふまえながら、保育内容の理解を促すとともに保育者の援助の実際を解説。各章末に保育実践につながるテーマを演習課題として設けた。
2640円

絵本力 SNS時代の子育てと保育

浅木尚実著 子どもと絵本のかかわりを通じ、絵本のもつ魅力と、絵本とのかかわりから引き出される、子どもがもつ豊かな世界のおもしろさに迫る。実際の保育の場での絵本の読み聞かせ、ブックトークを紙上で紹介。
2420円

発達

乳幼児期の子どもの発達やそれを支える
営みについて、最新の知見をお届け！

2・5・8・11月各10日発売
B5判各1650円

166

特集

①0歳の発達と保育
②地域に開かれた園へ

特集1 遠山洋一／井桁容子／遠藤利彦／松本博雄／塩崎美穂／渡邊由恵／村上博文／執筆
特集2 妹尾正教 関山隆一／松本理寿輝／木村創／瀬沼幹太／三輪律江／執筆

172

特集

子どものことば、再発見！

今井むつみ／秋田喜美／菱谷綾子／佐治伸郎／池田彩夏／奥村優子／高田明／戸田雅美／菅野良美／和田万希子／寺田奈々／萩原広道／檜崎雅／松井智子／塘利枝子／高畑節平／高嶋由布子／執筆

174

特集

いま、0歳からの子どもたちの権利を考える

上垣内伸子／山岸利次／森眞理／瀧口優／ユリア／島本一男／遠藤美保子／海老名悠希／吉田久仁子／浜谷直人／和田上貴昭／矢野景子／北野幸子／嶋村仁志／小林由利子／内藤知美

近刊

好評の旧版に補遺として新規項目を追加した最新版

保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典 [第2版]

中坪史典／山下文一／松井剛太／伊藤嘉余子／立花直樹編集委員

*2024年刊行予定

ミネルヴァ書房

〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1* 表示価格税込 目録呈
TEL 075-581-0296 FAX 075-581-0589 www.minervashobo.co.jp/